

八戸市美術館

Hachinohe Art Museum

令和3年度
(2021年度)

年報



1. 新美術館整備事業		4
2. 展覧会+プロジェクト	八戸市美術館開館記念「ギフト、ギフト、」	7
3. コレクション	収集	18
	管理	19
4. アートファーマー	建築ツアーガイド	21
5. 学校連携	学校連携プロジェクト	24
	大学資産を活用したアートの学び事業	26
6. イベント	美術館のプロローグ（開館イベント）	29
7. その他事業	5館連携プロジェクト AOMORI GOKAN	33
	はちとまネットワーク	34
8. 貸館		36
9. データ	入館者の状況	38
	広報	39
	八戸市美術館運営協議会	40
	運営（決算・組織）	41
	関係規約	
	八戸市美術館条例	42
	八戸市美術館条例施行規則	45
	八戸市美術館美術品等収集委員会規則	48
	施設概要	49
	沿革	51

1. 八戸市新美術館整備事業

新美術館整備の概要

1. 新美術館建設工事について

旧八戸市美術館は、1986年に県内初の博物館法に基づく美術館（登録博物館）として運営され、当市の文化芸術活動の振興に大きな役割を果たしてきた。しかしながら、建物は1969年に建設された旧税務署庁舎を全面改装したものであり、展示・収蔵空間が不十分なことに加え、施設の老朽化や、魅力的で自由度の高い芸術作品の鑑賞空間確保などの課題を抱え、長年多くの市民から新美術館の整備が期待されてきた。このような背景から、活発に展開される市民の文化芸術活動の拠点と、当市が進める「アートのまちづくり」の中核施設としてふさわしい、新しい美術館の整備を行った。

2016年より基本構想を策定、設計者選定プロポーザルを経て、基本設計・実施設計を行ってきた。2019年に着手した美術館建物本棟工事は、2020年12月に竣工を迎えた。

隣接する青森銀行八戸支店や、交番の土地を合わせた区域内で、それぞれの土地交換を含めて一体的な整備を進めてきた整備事業であるが、2020年には旧青森銀行の解体に着手し、美術館前の広場の整備を開始、2021年9月に広場工事が完成した。

新美術館整備の経緯

2016年度	基本構想策定、設計者選定プロポーザル実施、基本設計着手
2017年度	基本設計完了（繰越）、実施設計着手、旧美術館解体、地質調査
2018年度	実施設計完了（繰越）、旧交通安全協会建物解体、粗造成工事
2019年度	建物建築工事着手
2020年度	建物建築工事（繰越）・竣工、青森銀行建物解体・広場整備着手
2021年度	広場建設工事（繰越）・完成、オープン（2021年11月3日）

2. 広場等工事について

美術館の意匠や全体イメージと調和するような広場整備を行い、2021年9月に整備を完了した。

新美術館広場等工事の概要

設計・工事監理者	西澤徹夫建築事務所・タカバンスタジオ設計共同体
施工業者	穂積建設工業株式会社
建設地	八戸市大字番町10番地4ほか
面積	約3,000㎡
工事費	約2億1千万円
	建築設備 舗装工事、雨水排水工事、困障工事、植栽工事ほか
工事内訳	電気設備 電灯設備工事、動力設備工事、電熱設備工事、構内情報通信、網設備工事、防犯カメラ設備工事
	機械設備 屋外給水設備工事

1. 八戸市新美術館 整備事業

新美術館整備の概要

3. 新美術館整備に係るこれまでの主な経緯

年月	項目
1986年11月	八戸市美術館開館
2013年3月	第2期八戸市中心市街地活性化基本計画に美術館周辺修景事業を掲載
2015年3月	「八戸市に新美術館を熱望する市民の会」から提出された「24万都市八戸市にふさわしい新美術館の建設を求める陳情」が市議会で採択される
2015年7月～11月	測量業務委託実施
2016年4月	市に新美術館建設推進室を設置
2016年8月	八戸市新美術館と青森銀行八戸支店新店舗整備に関する覚書を締結
2016年9月	八戸市新美術館整備基本構想策定
2016年10月～ 2017年2月	設計者選定プロポーザルを実施、全国から応募のあった138者の中から、「西澤徹夫建築事務所・タカバンスタジオ設計共同体」を選定（審査結果公表は2017年3月）
2017年3月	基本設計着手
2017年4月	八戸市美術館閉館
2017年8月	新美術館建設推進室の事務室を移転し、中心街に「はちのへまちなかアトラボC○部屋（コベヤ）」を開室
2017年11月～ 2018年1月	地質調査業務委託実施
2017年11月～ 2018年5月	旧美術館解体工事実施
2018年2月	基本設計完了
2018年3月	実施設計着手
2018年9月～12月	旧交通安全協会庁舎解体工事実施
2018年10月	八戸市新美術館中期運営計画策定に着手
2018年12月～ 2019年4月	粗造成工事実施
2019年1月	実施設計完了、八戸市新美術館管理運営基本計画策定
2019年2月	シンボルマーク・ロゴデザイン等制作デザイナー選定（加藤賢策）
2019年4月	建築本棟工事、電気設備工事、機械設備工事請負契約締結
2019年6月	八戸市新美術館建設工事安全祈願祭実施
2020年3月	八戸市新美術館中期運営計画策定
2020年12月	八戸市新美術館本棟工事終了、竣工
2021年3月	新美術館広場等工事着手
2021年9月	新美術館広場等工事竣工
2021年11月	八戸市美術館オープン

2. 展覧会+プロジェクト

八戸市美術館開館記念 ギフト、ギフト、

1. 開催データ

会期 | 2021年11月3日(水・祝)～2022年2月20日(日)

開催日数 | 93日間

※新型コロナウイルス感染症の影響により、1月26日～2月20日まで休館・人数制限を実施

会場 | ギャラリー1・2、コレクションラボ、ブラックキューブ、ホワイトキューブ、ジャイアントルーム

観覧料 | 一般1,300円(1,100円)、高校・大学生700円(500円)、小・中学生200円(100円)

※()は20名以上の団体料金

※未就学児、八戸市内及び近隣町村(三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村、おいらせ町)の小・中学生は無料

※市内の65歳以上の方、障がい者手帳をお持ちの方とその付添い者1名は半額

入場者数 | 13,089人

図録 | B5、112頁

編集：高橋麻衣・大澤苑美・田村由衣・佐藤慎也、執筆：吉川由美(「ギフト、ギフト、」ディレクター)、小倉学(八戸クリニック街かどミュージアム館長兼学芸員)、西澤徹夫・浅子佳英・森純平(八戸市美術館設計者)、アートディレクション：加藤賢策(LABORATORIES)、デザイン：加藤賢策(LABORATORIES)、奥田奈保子(NINGHUA)、デザインアシスタント：望月滉太(LABORATORIES)、発行：八戸市美術館

ポスター | B2

デザイン：加藤賢策(LABORATORIES)

チラシ | A4、2頁

デザイン：加藤賢策(LABORATORIES)

ハンドアウト | A4、4頁(作品リストおよび展示マップ)

主催 | 八戸市美術館

協賛 | 南部電機株式会社

協力 | 一般財団法人VISITはちのへ、八戸三社大祭運営委員会、八戸三社大祭山車祭り行委保存会、はちのへ山車振興会

後援 | NHK青森放送局、青森放送、青森テレビ、めんこいテレビ、八戸テレビ、デーリー東北新聞

社、東奥日報、エフエム青森、コミュニティラジオ局BeFM

参加アーティスト・コレクション | 浅田政志(写真家)、江頭誠(現代美術家)、大澤未来(映像作家)、大西幹夫(切り絵作家)、KOSUGE1-16(現代美術家)、田附勝(写真家)、田村友一郎(現代美術家)、西澤徹夫・浅子佳英・森純平(八戸市美術館設計者)、八戸クリニック街かどミュージアム浮世絵コレクション、榎本佳子(陶芸家)、向井山朋子(ピアニスト・美術家)

ディレクター | 吉川由美

会場構成 | 西澤徹夫、浅子佳英、森純平

会場構成アシスタント | 小泉立、宮武壮太郎

グラフィックデザイン | 加藤賢策・奥田奈保子(LABORATORIES)

イラスト | 新地建郎

浮世絵展示監修 | 小倉学(八戸クリニック街かどミュージアム館長兼学芸員)

学術協力 | 柏井容子(八戸市教育委員会社会教育課学芸員)

担当学芸員 | 大澤苑美、高橋麻衣、田村由衣

2. 事業内容

開館記念企画として、八戸を代表する祭りである「八戸三社大祭」を出発点に、アートを通して「ギフト」の精神を見つめる展覧会とプロジェクトを開催。地域のリサーチから着想を得た新作や浮世絵などの多彩な作品の展示や、作品や地域への学びを深めるプロジェクトを全館で展開した。八戸ポータルミュージアムはっち八戸三社大祭のプロジェクト「DASHIJIN」を手掛けた吉川由美をディレクターに迎え、10組のアーティストが参加。また、共創パートナーである「八戸クリニック街かどミュージアム」の浮世絵コレクションも出品した。加えて、会場構成は八戸市美術館の設計を担当した西澤徹夫、浅子佳英、森純平が担当した。

開館前より、プレ事業を実施。また、アートファーマープロジェクトとして、向井山朋子が市民と音楽パフォーマンスを制作し上演するプロジェク

2. 展覧会+プロジェクト

八戸市美術館開館記念
ギフト、ギフト、

トと、八戸クリニック街かどミュージアム館長の小倉学と、浮世絵をテーマに、作品について理解を深めるプログラムを実施。このほか様々な関連企画を行い、新型コロナウイルスにより、準備段階での活動の制限や、会期後半の休館措置などの影響がありながらも、市民との関わりの中かで創り上げた展覧会となった。

3. 関連プロジェクト+イベント

プレイベント「江頭誠アーティストトーク+作品用柄毛布募集」

開催日 | 2021年8月21日(土) 14:00~15:30

ゲスト | 江頭誠

参加者数 | 14人

内容 | 出展作品で使う柄毛布の募集に向けて、江頭誠が自身の活動紹介と、「柄毛布」の鑑賞をするトークを行った。

プレイベント「浅田政志アーティストトーク+祭りのスナップ写真募集」

開催日 | 2021年9月26日(日) 13:00~15:00

※新型コロナウイルス感染症の影響により、オンライン開催

ゲスト | 浅田政志、撮影協力者(上組町若者連、吉田産業グループ山車組、塩町まかない班)

視聴回数 | 310回(2022年3月10日時点)

内容 | 市民が撮影した八戸三社大祭のスナップ写真の募集に向けて、浅田政志と作品撮影に協力した山車組の方によるトークを行った。

アートファーマープロジェクト

向井山朋子パフォーマンス「gift」

開催日(ワークショップ) | 2021年10月2日(土) 18:00~21:00、3日(日) 10:00~13:00、9日(土) 18:00~21:00、10日(日) 10:00~13:00、11月12日(金) 19:00~21:30、13(土) 19:00~21:30

開催日(公演) | 2021年11月14日(日) 17:00~21:00

音楽・演出 | 向井山朋子

パフォーマンスアシスタント | 磯島未来

出演 | 向井山朋子、アートファーマー14人

来場者数 | 98人

内容 | 向井山朋子とアートファーマーによるパフォーマンス創作プロジェクト。会期前から行われたワークショップを経て、ジャイアントルームを舞

台に公演を行った。

田附勝トーク&八戸デコトラミーティング

開催日 | 2021年11月23日(火・祝) 17:00~19:00

ゲスト | 田附勝、デコトラドライバー5人

参加者数 | 93人

内容 | 田附勝と作品撮影に協力したデコトラドライバーによるトークとあわせて、マエニワにて、実際に乗っているデコトラを展示した。

アートファーマープロジェクト

かだるアート 浮世絵編

開催日 | 2021年12月19日(日)、2022年1月16日(日)、4月17日(日) 各回14:00~17:00

※新型コロナウイルス感染症の影響により、2月13日(日)は中止、3月13日(日)は4月17日(日)に延期して開催

共創パートナー・講師 | 小倉学(八戸クリニック街かどミュージアム館長)

ゲスト | 石橋元平(山車製作者) ※4月17日のみ

参加者数 | 25人(延べ)

内容 | 小倉学とともに、出展作品の浮世絵から、浮世絵文化を学ぶ連続講座を開催。最終回では、山車製作者を招き、山車絵と浮世絵とのつながりについて伺った。

「ギフト、ギフト、」ガイドツアー

開催日 | 2022年1月13日(木) 15:00~16:00

※1月22日(土)、1月27日(木)は中止

内容 | 担当学芸員が展覧会を解説するガイドツアーを実施。

田村友一郎×石倉敏明アーティストトーク「予期せぬギフト」

開催日 | 2022年1月15日(土) 14:00~15:30

※オンライン配信も実施

ゲスト | 田村友一郎、石倉敏明(人類学者、秋田公立美術大学美術学部准教授)

参加者数 | 11人

内容 | 人類学者の石倉敏明を招き、作品制作のプロセスや、「ギフト・贈与」について語った。

種さがしラボ01「今、"ギフト"を考える。近内悠太×吉川由美トークイベント」

開催日 | 2022年1月15日(土) 18:30~20:00

※新型コロナウイルス感染症の影響により、オンライン開催

2. 展覧会+プロジェクト

八戸市美術館開館記念
ギフト、ギフト、

ゲスト | 近内悠太 (教育者・哲学者)、吉川由美

視聴回数 | 368回 (2022年3月10日時点)

内容 | 教育者・哲学者の近内悠太と展覧会のディレクターである吉川由美が、「ギフト・贈与」について語るトークイベントを開催した。

アーティストトーク・最終日スペシャル!

開催日 | 2022年2月20日 (日) 15:00~17:00

※新型コロナウイルス感染症の影響により、オンライン開催

ゲスト | 第1部 大澤未来×祭り人トーク：大澤未来、柏崎紘司、大森なつ実、羽瀬勝司、河原智子
第2部 締めくくりトーク：浅子佳英、江頭誠、田村友一郎、土谷享 (KOSUGE1-16)、西澤徹夫、吉川由美

視聴回数 | 300回 (2022年3月10日時点)

内容 | 展覧会最終日に合わせて、アーティストトークを開催。第1部では、大澤未来と作品制作に携わったメンバーと撮影協力者が作品について語った。第2部では、出展アーティストとディレクターが展覧会について語った。

江頭誠 毛布のお花贈呈式

開催日 | 2022年4月16日 (土) 14:00~15:00

ゲスト | 江頭誠

参加者数 | 19人

内容 | 作品に用いた柄毛布の提供者に、毛布から作った「お花」を贈呈するイベントを開催した。

4. 主なメディア掲載

新聞 |

- ・デーリー東北「新美術館11月3日開館／八戸市記念企画に写真家ら10組」2021年6月16日
- ・東奥日報「八戸市美術館11月3日開館／記念事業ギフト展」2021年6月16日
- ・デーリー東北、大澤苑美「美術のミカタ／【13】開館記念展「ギフト、ギフト、」／八戸三社大祭出発点」2021年10月14日
- ・デーリー東北、大澤苑美「美術のミカタ／【14】開館記念展「ギフト、ギフト、」II 向井山朋子と市民の音楽パフォーマンス」2021年10月28日
- ・デーリー東北「八戸市新美術館あすオープン／開館記念展 準備大詰め」2021年11月2日
- ・デーリー東北「八戸市新美術館きょうオープン／三社大祭 独特の視点で／開館記念展「ギ

フト、ギフト、」公開」2021年11月3日

- ・東奥日報「八戸市新美術館きょう開館／アートを介しまちづくり」2021年11月3日
- ・デーリー東北「八戸市新美術館オープン／多彩アートの世界」2021年11月4日
- ・東奥日報、大澤苑美「八戸市美術館開館記念「ギフト、ギフト、」上／八戸三社大祭を切り口に」2021年11月4日
- ・東奥日報「芸術のまちここから」2021年11月4日
- ・東奥日報、大澤苑美「八戸市美術館開館記念「ギフト、ギフト、」下／「ギフト」の広い概念提案」2021年11月5日
- ・デーリー東北「多彩なアート身近に／八戸市美術館オープン」2021年11月7日
- ・デーリー東北、高橋麻衣「美術のミカタ／【15】開館記念展「ギフト、ギフト、」III 風流という精神／八戸が生んだ飾りの美」2021年11月11日
- ・デーリー東北、高橋麻衣「美術のミカタ／【16】開館記念展「ギフト、ギフト、」IV 現代美術家・江頭誠による空間作品／生まれ変わる山車彫刻」2021年11月11日
- ・東奥日報「市美術館 開館記念／向山さんと「おもい わたす」」2021年11月30日
- ・東奥日報「デコトラ 広場に集結／写真家・田附さんとドライバー／市美術館で魅力語る」2021年12月7日
- ・デーリー東北、田村由衣「美術のミカタ／【17】開館記念展「ギフト、ギフト、」V 街かどミュージアム 浮世絵コレクション／金太郎に見る「かざり」の精神」2021年12月9日
- ・東奥日報「「ギフト」展8888人達成／山道さん一家に記念品」2021年12月14日
- ・デーリー東北「観覧者8888人達成／八戸市美術館開館記念展／山道さん一家 (東京) に記念品」2021年12月14日
- ・デーリー東北、大澤苑美「美術のミカタ／【18】開館記念展「ギフト、ギフト、」VI／美術館設計チーム「八戸文化資源相関図」つながる市内の文化事象」2021年12月23日
- ・デーリー東北「八戸市美術館開館記念展「ギフト、ギフト、」／写真出展の浅田政志さん／三社大祭通じた交流脈々」2021年12月26日
- ・デーリー東北、大澤苑美「美術のミカタ／【19】開館記念展「ギフト、ギフト、」VII 田村友一郎「予期せぬギフト」／「野生化」のデパートの風景」2022年1月13日
- ・デーリー東北、鷺田めろろ「鷺田めろろのあおも

2. 展覧会+プロジェクト

八戸市美術館開館記念
ギフト、ギフト、

りアート探訪／人と人が出会う場所／市民自身で開く美術館へ」2022年1月14日

- ・デーリー東北、高橋麻衣「美術のミカタ／【21】開館記念展「ギフト、ギフト、」IX 大澤未来「彼らからの視線」／未来へ託す祭りへの想い」2022年2月10日
- ・デーリー東北、大澤苑美「美術のミカタ／【22】開館記念展「ギフト、ギフト、」X KOSUGE1-16「インバウンドおじさん」／本質揺さぶる問いかけ」2022年2月17日

テレビ |

- ・ATV青森テレビ「いい★ふる」2021年11月20日
- ・NHK仙台放送局「もりすた!」2021年11月25日
- ・RAB青森放送「八戸市特番 アートで耕す、アートで育つ 八戸市美術館」2021年11月27日
- ・岩手めんこいテレビ「8っぴーサタデー」2021年11月25日
- ・tbc東北放送「サタデーウォッチン」2022年1月22日
- ・NHK「日曜美術館」2022年2月6日

雑誌 |

- ・季刊あおもりのき2021年秋号「八戸市美術館／11月3日開館!! 開館記念ギフト、ギフト、」2021年9月10日
- ・美術屋・百兵衛「注目の美術館／11/3OPEN 八戸市美術館」2021年10月8日
- ・月刊ギャラリー11月号「Special Exhibiton3／八戸市美術館開館記念「ギフト、ギフト、」」2021年11月1日
- ・芸術新潮2021年12月号「八戸市美術館開館記念 ギフト、ギフト、」2021年11月25日
- ・住宅特集2022年1月号「八戸市美術館開館記念 ギフト、ギフト、」2021年12月18日
- ・美術の窓2021年12月号「八戸市美術館開館記念 ギフト、ギフト、」2021年12月20日
- ・アートコレクターズ2021年12月号「八戸市美術館開館記念 ギフト、ギフト、」2021年12月25日
- ・Hanako2022年2月号「開館記念展示 ギフト、ギフト、」2021年12月25日
- ・GINZA2月号「八戸市美術館開館記念展「ギフト、ギフト、」」2021年12月25日
- ・いけ花龍生2022年2月号(第742号)「八戸市美術館開館記念展 ギフト、ギフト、」2022年2月1日
- ・トラッカーマガジンカミオン2022年2月号「青森県八戸市美術館でデコトラをテーマとしたアート作品が展示中」2022年2月1日

WEB |

- ・Web版美術手帖「八戸市美術館が11月3日に開館へ。オープニングは「ギフト、ギフト、」展」2021年6月17日(<https://bijutsutecho.com/magazine/news/exhibition/24189#>)
- ・Fashion Press ウェブ「「八戸市美術館」リニューアルオープン - “人や作品との出会い”を広げる参加型プロジェクトも展開」2021年6月21日(<https://www.fashion-press.net/news/gallery/74317/1281271>)
- ・Web版美術手帖「全面建替えの八戸市美術館が開館。「ギフト、ギフト、」展もスタート」2021年11月7日(<https://bijutsutecho.com/magazine/news/report/24809>)
- ・BRUTUS「〈八戸市美術館〉がついにオープン。開館記念は「ギフト、ギフト、」2021年11月8日(https://brutus.jp/hachinohe_city_museum/?heading=1)
- ・Tokyo Art Beat「フォトレポート／これからの日本に求められる芸術施設とは? 八戸市美術館がリニューアルオープン」2021年11月10日(https://www.tokyoartbeat.com/articles/-/hachinohe_art_museum)
- ・colocal コロカル「コロカルニュース／〈八戸市美術館〉がリニューアルオープン! アートを介した人々の活動が動き出す」2021年11月16日(<https://colocal.jp/news/144902.html>)
- ・青幻舎「八戸市美術館開館記念 ギフト、ギフト」(<https://www.seigensha.com/category/2021-11-17/>) 2021年11月17日
- ・Casa BRUTUS「青森に新たなアートの拠点〈八戸市美術館〉がオープン!」2021年11月20日(<https://casabrutus.com/categories/architecture/210269>)
- ・artscapeレビュー、五十嵐太郎「八戸市美術館」(<https://artscape.jp/report/review/genre/architecture,1,list,1,27.html>)

2. 展覧会+プロジェクト

八戸市美術館開館記念
ギフト、ギフト、

5. 開催の様子



展覧会風景



浅田政志作品制作風景



田附勝トーク&八戸デコラミーティング



向井山朋子パフォーマンス「gift」



かだるアート 浮世絵編



田村友一郎×石倉敏明アーティストトーク

ディレクターズメッセージ

飢えや疫病という生命の危機を生き抜くために、人間は祈り、祭りを行ってきました。

2010年に八戸ポータルミュージアム はちの文化事業ディレクターとして八戸に通い始めて以来、私は八戸三社大祭などの祭りが、このまちの文化形成に大きな影響を与えているという確信を年々深めてきました。

神輿行列に芸能が加わり、山車を人々が自らの手でつくり始めたことにより、世代を超えた多様な立場の市民が共に創るプロセスが祭りに埋め込まれました。こうして、祈りのための“創造”という“ギフト”は、人々を楽しませる“ギフト”となり、創造の場を支え合う“ギフト”の精神が生まれてきました。

この創造の場は、創る喜びだけでなく、利他の心、孤独からの解放といった目に見えぬ多くの“ギフト”をもたらしています。一方で、“ギフト”は、利用されやすく壊れやすいものでもあります。私たちが“ギフト”を意識的に受け取り、次へと贈らなければ、この輪は簡単に途絶えてしまいます。

新たな疫病の危機に直面する今、“ギフト”の心は、霧のなかの道を照らし出します。このまちが長い時のなかで育んだものは、100年後の世界を創造する種なのかもしれません。多くの市民の皆さんと共に創り、支えていただきながら、準備を進めてきたこの企画は、まさに“ギフト”の賜物です。ご協力いただきました皆さんに、心から感謝申し上げます。この“ギフト”が、ずっとずっとめぐり続けますように。

「ギフト、ギフト、」ディレクター 吉川由美

はじめに

「ギフト、ギフト、」は、八戸を代表する祭りである八戸三社大祭を出発点に、アートを通して“ギフト”の精神を見つめます。展覧会では、300年もの間続く八戸三社大祭を、“ギフト”ととらえるところから出発し、普遍的な視点で“ギフト”を思考することへと続いていきます。また、山車づくりの場のような、美術館らしい創造的な“ギフト”の場として、さまざまなプロジェクトを皆さんと実施していきます。

人類学者マルセル・モースは『贈与論』(1925)のなかで、「贈る」「受け取る」「お返しする」ことの循環によって成り立つ未開社会の交換儀礼や、人や集団の関係性を保つ互酬的なやりとりを「贈与=ギフト」ととらえました。この企画における“ギフト”もまた、モースが述べた経済行為では手に入らない「もの」や「こと」、そのやりとりを指しています。その特徴には、自分が受けた恩をその贈り主ではなく、次の誰かに時を超えて返していく性質があり、「ギブ&テイク」や「win-win」よりも拡張的、循環的な意味を込めて、タイトルを「ギフト、ギフト、」としました。八戸三社大祭に見られる、誰もが「贈り手」であり「受け手」であるようなあり方は、右肩上がりの成長に幸せを求める時代から変化した現代社会に示唆を与えるとともに、私たちの美術館が目指すアートのあり方と重なるものとなります。

主催 | 八戸市美術館
協賛 | 南部電機株式会社
協力 | 一般財団法人 VISIT はちのへ、八戸三社大祭運営委員会、八戸三社大祭山車祭り行事保存会、はちのへ山車振興会
後援 | NHK 青森放送局、青森放送、青森テレビ、青森朝日放送、めんこいテレビ、八戸テレビ、デーリー東北新聞社、東奥日報社、エフエム青森、コミュニティラジオ局 BeFM

ディレクター | 吉川由美
会場構成 | 西澤徹夫、浅子佳英、森純平
会場構成アシスタント | 小泉立、宮武壮太郎
グラフィックデザイン | 加藤賢策、奥田奈保子 (LABORATORIES)
イラスト | 新地健郎
浮世絵展示監修 | 小倉学 (八戸クリニック街かどミュージアム館長兼学芸員)
企画協力 | 柏井容子 (八戸市教育委員会社会教育課主査兼学芸員)
担当学芸員 | 大澤苑美、高橋麻衣、田村由衣



八戸三社大祭は、八戸の有力者たちが法霊社に天候回復を祈願し、享保6(1721)年にその感謝のしるしとして、法霊社(現在の神社)から長者山へ神輿渡御したことが起源となっています。やがて神輿行列に加わった町衆による人形屋台が、毎年趣向を凝らした山車へと変わって盛大さを増す一方、飢饉や疫病の時は小規模となるなど、時代に合わせて変化を遂げてきました。

この祭りに対して、大西幹夫は人々によって継承されてきた歴史という縦軸を描き、浅田政志は今の時代における人々のつながりという横軸をとらえています。八戸三社大祭では、神輿行列や民俗芸能、山車制作などの祭りに参加する人、その祭りを見る人、そして祭りを支える人など、さまざまな人々やコミュニティの関係が、今でもなお続いています。これからも歴史とつながりが編み出す“ギフト”の大きな広がりなかで、人々の想いがめぐり、未来へと受け継がれていくでしょう。

作品リスト

1-1
八戸三社大祭絵巻 (映像)
2021年/映像/17分15秒

1-2
大西幹夫
八戸三社大祭絵巻
1 法霊社(霧神社)の始まり
2021年/和紙、水彩/作家蔵

1-3
大西幹夫
八戸三社大祭絵巻
2 八戸藩の総鎮守
2021年/和紙、水彩/作家蔵

1-4
大西幹夫
八戸三社大祭絵巻
3 初めての神輿渡御行列
2021年/和紙、水彩/作家蔵

1-5
大西幹夫
八戸三社大祭絵巻
4「出し」の登場
2021年/和紙、水彩/作家蔵

1-6
大西幹夫
八戸三社大祭絵巻
5 八戸商人の心意気
2021年/和紙、水彩/作家蔵

1-7
大西幹夫
八戸三社大祭絵巻
6 天明の大飢饉
2021年/和紙、水彩/作家蔵

1-8
大西幹夫
八戸三社大祭絵巻
7 騎馬打毬・流鏑馬の始まり
2021年/和紙、水彩/作家蔵

1-9
大西幹夫
八戸三社大祭絵巻
8 三社の祭りへ
2021年/和紙、水彩/作家蔵

1-10
大西幹夫
八戸三社大祭絵巻
9 風流山車の登場
2021年/和紙、水彩/作家蔵

1-11
大西幹夫
八戸三社大祭絵巻
10 祭りの拠点
2021年/和紙、水彩/作家蔵

1-12
大西幹夫
八戸三社大祭絵巻
11 人々を魅了する祭り
2021年/和紙、水彩/作家蔵

1-13
大西幹夫
八戸三社大祭絵巻
12 八戸の宝、日本の宝、世界の宝
2021年/和紙、水彩/作家蔵

2-1
浅田政志
英雄 ご近所さん
2021年/インクジェットプリント/作家蔵

2-2
浅田政志
企業戦士の乱
2021年/インクジェットプリント/作家蔵

2-3
浅田政志
新・紙テープの舞
2021年/インクジェットプリント/作家蔵

2-4
浅田政志
伝承 祭魂
2021年/インクジェットプリント/作家蔵

2-5
浅田政志
童子 明日を駆ける
2021年/インクジェットプリント/作家蔵

八戸三社大祭の豪華絢爛な「風流山車」は、コレラの流行が収まったことを祝うために、明治20(1886)年に始まったと言われています。地域の人々の手で毎年つくり替えられるこの山車の出現が、現在も続く創造活動を介したコミュニティを生み出しました。

祭礼における「風流」は、中世以降に発展した華美で人目を引く趣向のことを指しますが、民俗学者の柳田国男は、この概念を生んだのは見物人の存在であると述べています。八戸三社大祭でも、観客という受け手が祭りの担い手に刺激を与えることで、山車は巨大化し、動きや演出を取り入れるなど、進化を続けています。風流の精神が育んだ「かざる」という創造行為は、時に目的や機能をはるかに上回る過剰さを備えています。それは、榎本佳子の陶芸や、田附勝が題材とした「デコトラ」にも共通しています。しかし、その過剰さは贈り手の想いのかたちであり、お金では買うことのできない“ギフト”なのです。

2-6
浅田政志
塩むすび合戦
2021年/インクジェットプリント/作家蔵

2-7
浅田政志
青天のごみ退治
2021年/インクジェットプリント/作家蔵

2-8
浅田政志
祝 夢の共演
2021年/インクジェットプリント/作家蔵

2-9
浅田政志
門付の調べ
2021年/インクジェットプリント/作家蔵

2-10
浅田政志
華女神 湊に降臨し 鼻血
2021年/インクジェットプリント/作家蔵

2-11
浅田政志
火消茶振舞隊
2021年/インクジェットプリント/作家蔵

2-12
浅田政志
神支度伝説
2021年/インクジェットプリント/作家蔵

2-13
浅田政志
超 かがやき姫
2021年/インクジェットプリント/作家蔵

2-14
浅田政志
着付絵巻
2021年/インクジェットプリント/作家蔵

3-1
榎本佳子
庄縮紋(武人埴輪)
2010年/陶/作家蔵

3-2
榎本佳子
壺/林檎
2021年/陶/作家蔵

3-3
榎本佳子
壺/貝
2021年/陶/作家蔵

3-4
榎本佳子
貝/壺
2021年/陶/作家蔵

3-5
榎本佳子
ホヤ/壺
2021年/陶/作家蔵

3-6
榎本佳子
五重塔/壺
2008年/陶/作家蔵

3-7
榎本佳子
イカ/壺
2021年/陶、LED/作家蔵

3-8
榎本佳子
波濤/皿
2021年/半磁/作家蔵

3-9
榎本佳子
傘/皿
2021年/陶/作家蔵

3-10
榎本佳子
Blue Birds / Blue Ceramics
2021年/半磁/作家蔵

4-1
田附勝
第五桜丸、ドライバー横町秋男と横町勝広と白いポニー/青森県階上町・横町建材、2021年5月
2021年/インクジェットプリント、額/作家蔵

誰かが差し出したものが“ギフト”となるかどうかは、受け手のとらえ方次第と言えます。それは、ゲルマン語系の言語では「ギフト (gift)」が「贈り物」と「毒」という2つの意味を持つというモースの指摘にも重なります。

八戸三社大祭が300年も続いてきたことは、人々がそれを“ギフト”だととらえているからである一方で、大澤未来の作品は、受け継がれてきたものを次へと贈る責任は軽くはないことを映し出しています。

また、祭りが明らかな“ギフト”であるならば、見過ごされた存在に光を当てるのもアートの役目と言えるでしょう。江頭誠は人々の不要となったもの、西澤徹夫・浅子佳英・森純平は八戸のさまざまな事象の関係性、八戸クリニック街かどミュージアムは祭りや浮世絵との共通性について、それぞれ独自の視点で価値を見出し、展示を通して受け手へと届けます。それらをどのようにとらえるかは、受け取る側の想像力に託されているのです。

4-2
田附勝
みちのく十和田観光、ドライバー芋田孝政と娘・佳奈／青森県十和田市・洞内鍍金塗装店、2021年7月
2021年／インクジェットプリント、額／作家蔵

4-3
田附勝
Junko丸、ドライバー漆戸淳一と妻・純子／青森県東北町・小川原湖公園キャンプ場、2021年7月
2021年／インクジェットプリント、額／作家蔵

4-4
田附勝
漁火慕情、ドライバー下田幸枝／青森県八戸市・館鼻漁港、2020年11月
2021年／インクジェットプリント／作家蔵

4-5
田附勝
風張建材、ドライバー風張幸夫／青森県八戸市・大伸盛場、2021年5月
2021年／インクジェットプリント／作家蔵

4-6
田附勝
ニックなし、ドライバー市ノ渡あゆむ／青森県八戸市・マルコー田中商店、2021年7月
2021年／インクジェットプリント／作家蔵

4-7
田附勝
AYAHIMEMARU、ドライバー田中渉／青森県おいらせ町・いちよう公園、2021年2月
2021年／インクジェットプリント／作家蔵

4-8
田附勝
この木なんの木丸、ドライバー山田健／青森県おいらせ町・山田種苗スギ園場、2021年7月
2021年／インクジェットプリント／作家蔵

4-9
田附勝
輝翔丸、ドライバー成田輝彦／青森県八戸市・八戸市美術館工事現場、2020年11月
2021年／インクジェットプリント／作家蔵

トラックアンドン 街道美術
制作年不詳／アクリル板、金属フレーム／横町建材蔵

トラックアンドン 八戸港
制作年不詳／ガラス、金属フレーム／横町建材蔵

トラックアンドン 恋愛死闘
制作年不詳／ガラス、金属フレーム／横町建材蔵

トラックアンドン 横町建材
制作年不詳／アクリル板、金属フレーム／横町建材蔵

5-1
江頭誠
おやすみのあと
2021年／毛布、ミクストメディア／作家蔵

6-1
西澤徹夫・浅子佳英・森純平
八戸文化資源相関図
2021年／ミクストメディア／作家蔵

八戸クリニック街かどミュージアム
※7-1～7-75 は全て八戸クリニック街かどミュージアム蔵

【前期 11月3日～12月20日】
7-1
北尾政美
浮絵 江戸堺町芝居之図
寛政末 (1800) 年頃／大々判錦絵

7-2
楊洲周延
江戸風俗十二ヶ月之内
十一月猿若町顔見世積物之図
明治22 (1889) 年／大判錦絵3枚組

「ギフト」というと、一般的にはプレゼントや贈答品が思い浮かぶのではないのでしょうか。誰かから贈られたプレゼントはお金に代えがたいものでありながら、市場で流通する商品です。貨幣経済とギフト経済は切っても切れません。

八戸三社大祭を見ても、経済状況が運営に影響を与えます。また、祭りを観光経済からとらえることは、その本質を大きく揺さぶります。まさにコロナ禍の2年間、祭りとは何かを考えることになりました。

経済偏重だけではうまくいかないと感じながら、一方で、助け合いや物々交換だけで生きていけない私たちは、貨幣経済と共存し、社会をよりよくするものとして“ギフト”を重要視する必要があります。その時、ローカルから考え、行動していくことが力を持つのではないのでしょうか。

田村友一郎、KOSUGE1-16、向井山朋子の3人のアーティストは、鮮やかに、アイロニカルに、また一方で可愛らしくこの“ギフト”を提示します。

7-3
歌川国貞
助六
弘化4 (1847)～嘉永5 (1852) 年／大判錦絵3枚組

7-4
歌川国貞
東海道五十三次之内
京 真柴久吉
嘉永5 (1852) 年／大判錦絵

7-5
歌川国貞
東海道五十三次之内
京 石川五右衛門
嘉永5 (1852) 年／大判錦絵

7-6
歌川国貞
十八番之内壺
暫 鎌倉権五郎景政
嘉永5 (1852) 年／大判錦絵

7-7
歌川国貞
東海道五十三次之内
小田原箱根間 曾我の里 鯉坊主
嘉永5 (1852) 年／大判錦絵

7-8
豊原国周
矢の根五郎 市川團十郎
明治15 (1882) 年／大判錦絵3枚組

7-9
歌川国貞
幡随長兵衛出迎え図
嘉永3 (1850) 年／大判錦絵3枚組

7-10
歌川国貞
役者化粧姿絵 河原崎権十郎
文久元 (1861) 年／大判錦絵

7-11
楊洲周延
江戸砂子年中行事 七夕之図
明治18 (1885) 年／大判錦絵3枚組

7-12
歌川国貞
五節句ノ内 文月
天保14 (1843) 年頃／大判錦絵3枚組

7-13
歌川国貞
美伊達五節句 花方揃気名弘
一名ほめことば
文久3 (1863) 年／大判錦絵5枚組

7-14
作者不詳
鯉絵 自身除妙法
安政2 (1855) 年／大判錦絵

7-15
作者不詳
鯉絵 雨にハ困ります野じゅくしばらくのそとね
安政2 (1855) 年／大判錦絵

7-16
柳亭種彦作 歌川国貞画
にせむらきいなかげんじ
修紫田舎源氏 二十五編
天保9 (1838) 年頃／版本

7-17
一筆庵主人 (柳下亭種員) 作 歌川国貞画
そのゆかりひなのおもかげ
其由縁部逸傳 十四編
安政3 (1856) 年／版本

7-18
歌川国貞
源氏絵物語 紅葉賀
弘化元 (1844) 年頃／中判錦絵

7-19
歌川国貞
今源氏錦絵合 紅葉賀
嘉永6 (1853) 年／中判錦絵

7-20
歌川国貞
源氏後集余情
廿二のまき 玉かづら
安政6 (1859) 年／大判錦絵2枚組

7-21
歌川国貞
源氏後集余情
三十の巻 ふちばかま
安政 5 (1858) 年／大判錦絵 2 枚組

7-22
歌川国貞
源氏別荘の月
安政元 (1854) 年／大判錦絵 3 枚組

7-23
楊洲周延
高貴納涼ノ画
明治 20 (1887) 年／大判錦絵 3 枚組

7-24
歌川貞秀
神奈川横浜新湊港崎町遊廓
花盛之図真景
万延元 (1860) 年／大判錦絵 3 枚組

7-25
溪斎英泉
契情道中双ろく 箱根
見立よしわら五十三つ
岡本屋内瓜生野
文政 8 (1825) 年頃／大判錦絵

7-26
溪斎英泉
廓の四季志吉原要
五月端午 初のあやめ
松葉屋内代々山
文政 6 (1823) 年頃／大判錦絵

7-27
月岡芳年
風俗三十二相 しなやかそう
天保年間傾城之風俗
明治 21 (1888) 年／大判錦絵

7-28
歌川国芳
木曾街道六十九次之内
上尾 三浦の高雄
嘉永 5 (1852) 年／大判錦絵

7-29
2 代歌川国貞
隅田川岡の賑ひ
安政 3 (1856) 年／大判錦絵 3 枚組

7-30
歌川芳艶
江戸花夜の賑
万延元 (1860) 年／大判錦絵 3 枚組

7-31
月岡芳年
新撰東錦絵 神明相撲闘争之図
明治 19 (1886) 年／大判錦絵 2 枚組

7-32
歌川国芳
木曾街道六十九次之内
浦和 魚屋団七
嘉永 5 (1852) 年／大判錦絵

7-33
歌川国芳
木曾街道六十九次之内
下諏訪 八重垣姫
嘉永 5 (1852) 年／大判錦絵

7-34
豊原国周
地名十二ヶ月之内十一月
加藤清正 市川左団次
明治 15 (1882) 年頃／大判錦絵

7-35
歌川芳艶
高松城水責之図
元治元 (1864) 年／大判錦絵 3 枚組

7-36
歌川貞秀
太平記六波羅合戦 楠木正行
夜討に尊氏丹波へ退く
安政 6 (1859) 年／大判錦絵 3 枚組

【後期 12月22日～2月20日】
7-37
溪斎英泉
猿若町芝居之略図
天保 13 (1842) 年頃／大々判錦絵

7-38
2 代歌川芳宗
市川右団次東京新富座江乗込之図
明治 15 (1882) 年／大判錦絵 3 枚組

7-39
歌川国貞
助六
安政元 (1854) 年／大判錦絵 2 枚組

7-40
月岡芳年
月百姿 深見自休
明治 20 (1887) 年／大判錦絵

7-41
歌川国貞
本朝丸網五郎成田山之御利益二而
危一命ヲ助ルノ処
嘉永 4 (1851) 年／大判錦絵 3 枚組

7-42
歌川国貞
見立三十六歌撰之内
藤原敏行朝臣 累の亡魂
嘉永 5 (1852) 年／大判錦絵

7-43
歌川国貞
喜の字つくし キセル
文久元 (1861) 年／大判錦絵

7-44
歌川国貞
喜の字つくし きられ與三
文久元 (1861) 年／大判錦絵

7-45
歌川国貞
喜の字つくし 生八丈
文久元 (1861) 年／大判錦絵

7-46
歌川国貞
喜の字つくし きくじどう
文久 2 (1862) 年／大判錦絵

7-47
歌川国貞
喜の字つくし 紀のつね
文久 2 (1862) 年／大判錦絵

7-48
歌川国貞
中村座三階図
文政 7 (1824) 年頃／大判錦絵 3 枚組

7-49
作者不詳
死絵 8 代市川団十郎
嘉永 7 (1854) 年／大判錦絵

7-50
楊洲周延
江戸砂子年中行事 端午之図
明治 18 (1885) 年／大判錦絵 3 枚組

7-51
歌川国芳
坂田怪童丸
天保 7 (1836) 年頃／大判錦絵

7-52
楊洲周延
江戸風俗十二ヶ月之内
八月月見之宴
明治 22 (1889) 年／大判錦絵 3 枚組

7-53
歌川国貞
曆中段つくし 取意勢固世身見立
十二直 極月の餅搗
弘化 4 (1847) 年～嘉永 5 (1852) 年

7-54
歌川芳富
有掛絵 五月十七日土水性ノ人有
卦に入七ヶ之間万吉
元治元 (1864) 年／大判錦絵

7-55
歌川広景
青物魚軍勢大合戦之図
安政 6 (1859) 年／大判錦絵 3 枚組

7-56
柳亭種彦作 歌川国貞画
倭紫田舎源氏 二十五編
天保 9 (1838) 年頃／版本

7-57
一筆庵主人 (柳下亭種員) 作 歌川国貞画
其由縁鄙迺俤 十六編
安政 7 (1860) 年／版本

7-58
歌川国貞
源氏絵物語 葵
弘化元 (1844) 年頃／中判錦絵

7-59
歌川国貞
今源氏錦絵合 葵
嘉永 5 (1852) 年／中判錦絵

7-60
歌川国貞
源氏後集余情 二乃巻 ははき木
安政 4 (1857) 年／大判錦絵 2 枚組

7-61
歌川国貞
源氏後集余情 十のまき 花の宴
安政 5 (1858) 年／大判錦絵 2 枚組

7-62
2 代歌川国盛
源氏絵四図
慶応元 (1865) 年／大判錦絵 3 枚組

7-63
楊洲周延
御遊覧御休憩之図
明治 22 (1889) 年／大判錦絵 3 枚組

7-64
豊原国周
花盛美人揃
安政 6 (1859) 年／大判錦絵 5 枚組

7-65
豊原国周
見立屋夜廿四時之内 午前二時
明治 23 (1890) 年／中判錦絵

7-66
豊原国周
見立屋夜廿四時之内 午後六時
明治 23 (1890) 年／中判錦絵

7-67
歌川国貞
二十四好今様美人 祭り好
文久 3 (1863) 年／大判錦絵

7-68
豊原国周
花菖蒲郭之三美人
明治 4 (1871) 年／大判錦絵 3 枚組

7-69
歌川芳虎
江戸の花子供遊び 江組五番組
安政 5 (1858) 年／大判錦絵

7-70
歌川芳虎
江戸の花子供遊び 糸組五番組
安政 5 (1858) 年／大判錦絵

7-71
歌川国芳
通俗水滸伝豪傑百八人之一個
九紋龍史進 跳洞虎陳達
文政 10 (1827) 年頃／大判錦絵

7-72
豊原国周
団七九郎兵衛 市川団十郎
明治 16 (1883) 年頃／大判錦絵 3 枚組

7-73
歌川芳虎
太平記 四国征伐
慶応 3 (1867) 年／大判錦絵 3 枚組

7-74
歌川国芳
しじょうなわて
四条騒 の戦い
安政 4 (1857) 年／大判錦絵 3 枚組

7-75
歌川国芳
和田合戦 美秀惣門押破
嘉永 5 (1852) 年／大判錦絵 3 枚組

8-1
大澤未来
彼らからの視線
2021 年／映像／作家蔵

9-1
田村友一郎
予期せぬギフト
2021 年／ミクストメディア／10 分 20 秒／
作家蔵

10-1
KOSUGE1-16
インバウンドおじさん
2021 年／ミクストメディア／作家蔵

11-1
向井山朋子
「gift」(パフォーマンス映像)
公演日 | 2021 年 11 月 14 日
会場 | 八戸市美術館
映像 / 9 分 28 秒

3. コレクション

収集

1. 八戸市美術館美術品等収集方針

1. 八戸市を中心とした近隣地域ゆかりのもの
2. 八戸地域における新たな魅力の創造や学びにつながるもの
3. 八戸の美術を美術史全体の中で位置づけられるもの

2. 八戸市美術館美術品等収集委員会

概要

美術品などを適正かつ公正に収集するため、八戸市美術館美術品等収集委員会規則に基づき、国内外の美術の動向や美術館運営のあり方、先進事例等に精通した専門家で構成する「八戸市美術館美術品等収集委員会」を設置し、収集候補作品に係る調査審議を実施。

委員

会長 | 塩田純一（美術評論家、前新潟市美術館館長、元青森県立美術館美術統括監）

副会長 | 滝尻善英（青森県文化財保護協会副会長、八戸市文化財審議委員副委員長）

委員 | 池田亨（青森県立美術館美術企画課課長）

委員 | 藤浩志（美術家、秋田公立美術大学教授、秋田市文化創造館館長）

委員 | 吉田尊子（岩手県立美術館 学芸普及課課長）

開催状況

開催日 | 2022年3月29日（火）

場所 | 八戸市美術館ジャイアントルーム

管理

1. 収蔵品修復

以下の資料の修復を行った。

作者名	作品名	制作年	素材・技法	サイズ (cm)
福田寛	蕪島	不詳	油彩・キャンバス	80.3×100.0
八戸市立湊中学校 養護学級生徒	虹の上をとぶ船 16点	1973	木版・紙	31.4×45.3

(委託先：有限会社修復研究所21)

2. 収蔵品撮影

デジタル撮影 | 17点

フィルム撮影 | 10点

(委託先：株式会社フォトセンター惣門)

3. 収蔵品貸出

該当なし

4. その他

パッシブインジケーターによって、施設内の有機酸およびアンモニアの発生確認を行った。作品の保存管理のため、中性紙で保存箱 (30点) を製作した。

4. アートファーマー

建築ツアーガイド

1. 事業内容

八戸市美術館の建物の魅力や特徴を、みんなで一緒に学び、学んだことを他の誰かに自分の言葉で伝える実践(ガイド)を通して、美術館と人をつなぎ、新たなコミュニティを育むことを目的に実施。

2. 開催データ

登録者数 | 10人

1. 建築ツアーガイド講座

募集期間 | 2021年9月21日(水)～10月28日(金)

第1回講座

開催日 | 2021年10月10日(日) 14:00～16:00

内容 | 自己紹介、館長レクチャー、八戸市美術館の概要説明、館内見学など

第2回講座

開催日 | 2021年11月13日(土) 14:00～16:00

内容 | 展覧会鑑賞、グループワーク

第3回講座

開催日 | 2021年11月20日(土)～23日(火)

※いずれか1日参加

内容 | 設計者レクチャー、館内案内

第4回講座

開催日 | 2021年11月28日(日) 14:00～16:00

内容 | コミュニケーションについて学ぶワークショップ

講師 | 吉川由美

2. ガイド実践

開催日 | 2021年12月4日(土)、5日(日)、11日(土)、12日(日)

※いずれか1日参加

3. 主なメディア掲載

新聞 |

- ・デーリー東北「市民ガイド 独自の目線で 市美術館建築ツアー 来館者に活用法発信」2021年12月9日
- ・東奥日報「市美術館 魅力育てよう 館内ツアー 特徴を解説」2021年8月9日

4. 開催の様子



第1回講座



第4回講座



ガイド実践



ガイド実践



5. 学校連携

学校連携プロジェクト

1. 事業内容

新美術館では、アートの学びを重視する美術館として、小中高校などの教育機関との連携強化を図っていくことを計画に掲げている。児童生徒の個々の価値観や美意識を醸成し、一人一人がアートを通して自立できる機会を提供できるよう、教員・学芸員・専門家が一緒に全国の美術教育の事例などを研究できる場（ラボ）を館内に設けるとともに、学校現場で活用しやすい美術教育に関するプログラム・ツールの開発・実践などについて計画しており、2020年度に学校連携のためのプロジェクトチームを立ち上げ、先生方と一緒に検討を進めた。

プロジェクトの活動により、先生同士の横のつながりが生まれ、情報交換の場にもなった。児童生徒にとっても美術館との連携や世代を超えた交流があり、互いの発想や表現の違いを感じとり、創作への良い刺激になったと考えられる。制作した作品を展示することで、参加した児童生徒の家族が美術館を訪れるきっかけにもなった。また、新聞制作では、地元企業やアーティスト、グラフィックデザイナーなどへの取材を行い、社会との交流も生まれた。

2. 開催データ

1. 学校連携プロジェクトチーム

活動日 | 2021年6月1日（火）、8月3日（火）、2022年2月18日（金）

参加者数 | 小学校教諭：7人、中学校教諭：5人、高等学校教諭：2人、専門家：三澤一実、学芸員：2人

内容 | 全体会議を開催して情報共有や対話型鑑賞を行うほか、プロジェクトを企画運営した。

大きな絵プロジェクト

制作日 | 2021年8月3日（火）

展示期間 | 2021年8月8日（日）～9月20日（月・祝）、10月1日（金）～3日（日）

参加校 | 八戸市立第一中学校、青森県立八戸東高等学校、八戸市立城北小学校、八戸市立西白

山台小学校、八戸市立白山台中学校、八戸市立東中学校

参加者数 | 195人（大きな木の制作：41人、「八戸の実」制作：154人）

内容 | 小中学生・高校生による共同制作。八戸市立第一中学校、青森県立八戸東高等学校の美術部員がジャイアントルームで虹色の大きな木の絵を描き、事前に小中学生から募集した「八戸の実」を縫い付け、縦10.8m、横5.4mの巨大な絵を制作、展示を実施した。

小中高同じテーマで作品づくりプロジェクト

制作日 | 2021年8月10日（火）

展示期間 | 2021年10月1日（金）～3日（日）

参加校 | 八戸市立多賀小学校、八戸市立豊崎小学校、八戸市立三条中学校、八戸市立第二中学校、八戸市立東中学校、青森県立八戸北高等学校

参加者数 | 67人

内容 | 小中学生・高校生が美術館に集まり、同じ素材を使い、「こころ」をテーマに作品を制作。完成後は高校生がファシリテーターとなり小中高生混合の鑑賞会を行った後、教員が工夫を凝らした展示を実施。

美術館新聞部プロジェクト

活動日 | 2021年3月22日から継続して活動

参加校 | 青森県立八戸工業高等学校、八戸市立江南小学校

参加者数 | 7人

内容 | 小学生と高校生が、新聞をつくるプロジェクト。インタビューや記事制作、新聞社の訪問、新聞名の検討、キャラクターづくりなどを経て、創刊号を刊行した。

2. 「はみ出す力展 vol. 3-図工・美術の授業展 2021」への出展

会期 | 2021年9月12日（日）～19日（日）

会場 | うらわ美術館

内容 | 学校連携プロジェクトの活動内容を紹介するパネルを作成し展示した。

5. 学校連携

学校連携プロジェクト

3. 主なメディア掲載

新聞 |

- ・デーリー東北「芸術教育 連携強化へ／八戸市新美術館と学校側」2021年8月2日
- ・デーリー東北「八戸市新美術館の初作品を制作／東高、一中の美術部員／市内児童生徒の絵ちりばめ」2021年8月8日
- ・デーリー東北「市美術館、小中高生70人参加それぞれの「心」立体に 多彩な表現、学校の枠越え交流」2021年8月14日
- ・デーリー東北、田村由衣「美術のミカタ 【11】学校連携プロジェクトチーム 多様な表現、価値観実感」2021年9月16日

4. 開催の様子



美術館新聞部プロジェクト



小中高同じテーマで作品づくりプロジェクト



学校連携プロジェクトチーム



大きな絵プロジェクト

大学資産を活用したアートの学び事業

1. 事業内容

美術館の事業の柱の1つである大学連携を具現化するため、新美術館内に整備する大学活動拠点と連携した事業の方向性を探る。また、八戸学院大学および同大学短期大学部、八戸工業大学、八戸工業高等専門学校の特徴を活かした共同事業により、人材育成や地域の活性化に繋げる事業を展開した。

2. 開催データ

事業期間 | 2021年7月20日(火)～2022年3月31日(木)

委託先 | 八戸学院地域連携研究センター

1. アートの魅力発見・共有事業

「わたしたちの八戸アート」ワークショップ

内容 | アートや美術館にあまり関心がない、敷居が高いと感じている方を対象に、自分なりのアートの楽しみ方を見つけてもらうワークショップを行い、アートや美術館への興味・関心の向上と、八戸市美術館への来館のきっかけをつくった。当初は美術館内での開催を検討していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、3回ともオンラインで、少人数によるワークショップ開催とした。

アートは難しくない! 私なりの八戸アートの楽しみ方

開催日 | 2021年11月20日(土) 13:00～16:00

講師 | 若宮和男(起業家、アート思考キュレーター、一級建築士)、玉樹真一郎(八戸学院大学地域経営学部特任教授、わかる事務所代表)

参加者数 | 18人

八戸とアートはつながる! 私なりの八戸アート企画会議

開催日 | 2021年12月4日(土) 13:00～16:00

講師 | 若宮和男(起業家、アート思考キュレーター、一級建築士)、玉樹真一郎(八戸学院大学地域経営学部特任教授、わかる事務所代表)

参加者数 | 15人

私たちがつくる! 八戸アート発表会

開催日 | 2021年12月18日(土) 13:00～16:00

講師 | 若宮和男(起業家、アート思考キュレーター、一級建築士)、玉樹真一郎(八戸学院大学地域経営学部特任教授、わかる事務所代表)

参加者数 | 3人

2. アート教育指導者育成事業

内容 | 保育士などを対象に、現代芸術教室「アートイズ」のノウハウを活用した研修会を開催し、幼児保育に関わる方々の美術教育に対する理解を高めるとともに、スキルアップを図った。

開催日 | 2022年2月18日(金) 13:30～15:00

講師 | 佐貫巧(八戸学院短期大学部幼児保育学科准教授、現代芸術教室「アートイズ」主宰)

場所 | 百石幼稚園

参加者数 | 12人

オンライン参加 | 南売市保育園、すぎのこ保育園、みどりのかぜエデュカーレ、千葉幼稚園

3. プレオープンイベント事業

内容 | オリジナルのカウントダウンボールを制作するワークショップを開催し、美術館のグランドオープンに向けて機運を高めた。

開館まで待てない! みんなでチャレンジ88日!! オリジナルカウンターボールをつくろう☆

開催日 | 2021年8月8日(土)

(1) 10:00～12:00 (2) 14:00～16:00

講師 | 佐貫巧(八戸学院短期大学部幼児保育学科准教授、現代芸術教室「アートイズ」主宰)

内容 | 美術館開館88日カウンターボールを制作するワークショップ。

参加者数 | (1) 14人 (2) 13人 計27人

5. 学校連携

大学資産を活用した
アートの学び事業

4. 三校連携「アート×○○」講座事業

事業目的 | 八戸学院大学・短期大学部、八戸工業大学、八戸高専の特徴を活かした、アートを切り口とした講座を開催し、日常生活や地域における気づきや新たな発想を提供する。

アート×子ども

開催日 | 2022年3月11日(金) 13:00～

講師 | 池田拓馬(八戸学院短期大学部准教授)

アート×食

開催日 | 2022年3月14日(月) 13:00～

講師 | 皆川俊平(八戸工業大学感性デザイン学部創生デザイン学科准教授)

アート×縄文

開催日 | 2022年3月16日(水) 15:00～

講師 | 馬渡龍(八戸工業高等専門学校環境都市・建築デザインコース准教授)

3. 開催の様子



開館まで待てない! みんなでチャレンジ88日!! オリジナルカウンターボールをつくろう☆

6. イベント

美術館のプロローグ

1. 事業内容

2021年11月3日(日・祝)の開館に向け、イベント「美術館のプロローグ」を開催した。八戸の「八」にちなみ、8月8日から数えて88日目に開館を迎える日に、第一弾イベントを実施、多くの市民が訪れた。

2. 開催データ

1. 開館まで88日！ カウントアップイベント

開催日 | 2021年8月8日(日)

開催時間 |

(1) 仙台フィルハーモニー管弦楽団ミニコンサート
10:00~11:30、14:00~15:30

(2) 館内自由見学「なんもしない美術館」12:00~13:30、18:00~19:00

(3) 館長&スタッフトーク「美術館のプロローグ」
16:00~17:30

参加料 | 無料

入館者数 | 597人

内容 | 5つの時間帯に分け、館内見学とイベントを実施。八戸市公会堂で9月に実施予定だった仙台フィルハーモニー管弦楽団の演奏会(新型コロナウイルスの影響により延期)と連携し、オーボエ首席奏者と弦楽奏者3人によるアンサンブルミニコンサートや、美術館の目指す姿や展覧会ラインナップを発表する館長&スタッフトークを実施した。

2. 大学資産を活用したアートの学び事業

開館まで待てない！ みんなでチャレンジ88日!!
オリジナルカウンターボールをつくろう☆

(p. 27参照)

3. 開館記念「ギフト、ギフト、」関連イベント

「江頭誠アーティストトーク+作品用柄毛布募集」

(p. 08参照)

4. トークイベント「建築にみるこれからの美術館 ～八戸市美術館の可能性～」

開催日 | 2021年12月12日(日) 15:00~17:00

※新型コロナウイルス感染症の影響により、2021年8

月26日(木)から延期して開催

パネリスト | 日比野克彦(岐阜県美術館館長/熊本市現代美術館館長/アーティスト)、青木淳(京都市京セラ美術館館長/建築家)、西澤徹夫・浅子佳英(八戸市美術館設計者代表)、佐藤慎也(八戸市美術館館長)

モデレーター | 五十嵐太郎(建築史家)

内容 | 最近リニューアルオープンをした美術館の館長をゲストに迎え、美術館建築を切り口に「これからの美術館」を考え、八戸市美術館の可能性を探った。八戸市美術館を含め、青森県内5つの美術館・アートセンターが連携する「AOMORI GOKAN」の2021年度の共通テーマ「建築」にもちなんだイベントとして実施した。

5. 八戸市文化協会選抜作家展

会期 | 2021年9月17日(金)~20日(月・祝)

開催時間 | 10:00~19:00(最終日は15:00まで)

会場 | ギャラリー1・2、ジャイアントルーム、スタジオ

観覧料 | 無料

主催 | 八戸市美術館、八戸市文化協会

内容 | 八戸市文化協会会員による展覧会を開催。絵画、書、写真、プレストフラワーなど、多彩な作品が展示された。八戸市美術館で初めて美術作品が展示される機会となった。

作品点数 | 書道33点、絵画41点、写真35点
合計109点

6. 開館記念「ギフト、ギフト、」関連イベント

「浅田政志アーティストトーク+祭りのスナップ写真募集」

(p. 08参照)

チラシ | A4、2頁

デザイン：加藤賢策(LABORATORIES)

6. イベント

美術館のプロローグ

3. 主なメディア掲載

新聞 |

- ・デーリー東北「新美術館出発心待ち 八戸プレイイベント始まる」2021年8月9日
- ・東奥日報「開館まで88日膨らむ期待 市美術館初の一般公開 演奏会や工作も」2021年8月9日
- ・デーリー東北「私見創見 八戸市美術館のプロローグ 「カオス八戸」どう見せるか」2021年8月19日
- ・東奥日報「巨大空間 時代の必然 八戸美術館建築テーマにトーク」2021年12月20日

4. 開催の様子



館内自由見学「なんもしない美術館」



仙台フィルハーモニー管弦楽団ミニコンサート



館長&スタッフトーク「美術館のプロローグ」



建築トーク

Hachinohe Art Museum

新しい美術館は、様々な人々、環境、活動を取り、人と人との間に生まれ、みなさんの未来です。美術館のプロローグは、美術館に関するトークイベントだけでなく、市民の参加型文化活動を通じて、美術館の未来を一緒に考えていきます。開催されたからこそ、一緒に楽しみましょう！

8.8 開館まで88日！カウントアップイベント

2021年11月3日(水・祝)に、八戸市美術館は生まれ変わって開館します。8月、9月はイベントを開催します！

11.3 OPEN

美術館のプロローグ

8.21 トークイベント「建築にあるこれからの美術館 - 八戸市美術館の可能性 -」

8.26 アートトーク + 作品用帆布募集

9.17-20 八戸市文化協会 選抜作品展

Coming soon

https://hachinohe-art-museum.jp

お問合せ・申込先
〒030-0001 青森県八戸市大字青野町10-4
TEL: 0178-46-8338 FAX: 0178-24-4531
Email: art@city.hachinohe.aomori.jp
Twitter, Facebook, Instagramもご覧ください！

入場券・観覧料

八戸市美術館

開館まで88日！
カウントアップイベント

開館まで88日となる8月8日に、開館準備中の美術館内を一室公開。館内の見学とあわせて、様々なプログラムをお楽しみいただけます。

8月8日(日)
開館まで88日！
カウントアップイベント

8月21日(土)
トークイベント
「建築にあるこれからの美術館 - 八戸市美術館の可能性 -」

8月26日(木)
アートトーク
+ 作品用帆布募集

9月17日(日) - 20日(水)
八戸市文化協会選抜作品展

Coming soon

チラシ (表裏)

美術館のプロローグ 8.8

8月8日(日)
開館まで88日！
カウントアップイベント

開館まで88日となる8月8日に、開館準備中の美術館内を一室公開。館内の見学とあわせて、様々なプログラムをお楽しみいただけます。

8月8日(日)
開館まで88日！
カウントアップイベント

8月21日(土)
トークイベント
「建築にあるこれからの美術館 - 八戸市美術館の可能性 -」

8月26日(木)
アートトーク
+ 作品用帆布募集

9月17日(日) - 20日(水)
八戸市文化協会選抜作品展

Coming soon

美術館のプロローグ 8.8

8月8日(日)
開館まで88日！
カウントアップイベント

開館まで88日となる8月8日に、開館準備中の美術館内を一室公開。館内の見学とあわせて、様々なプログラムをお楽しみいただけます。

8月8日(日)
開館まで88日！
カウントアップイベント

8月21日(土)
トークイベント
「建築にあるこれからの美術館 - 八戸市美術館の可能性 -」

8月26日(木)
アートトーク
+ 作品用帆布募集

9月17日(日) - 20日(水)
八戸市文化協会選抜作品展

Coming soon

7. その他事業

5館連携プロジェクト AOMORI GOKAN

1. 事業内容

青森県立美術館、青森公立大学国際芸術センター青森、弘前れんが倉庫美術館、十和田市現代美術館、八戸市美術館の5つの美術施設による連携の取組を推進するための組織として2020年7月に「青森アートミュージアム5館連携協議会」(事務局:青森県立美術館)が設立された。県民及び観光客の県内周遊を促進し、美術館への入館者数の増加につなげるため、5館連携の基盤を活用して、青森のアートの魅力を国内外への情報発信及び周遊促進に係る事業を行っている。

2. 開催データ

1. 5館共通ウェブサイトによる情報発信

URL | <https://aomorigokan.com>

2. 「建築」を共通テーマとするプログラムの実施

(1) 5館共同企画

「建築」をテーマとするコンテンツを作成し、5館共通ウェブサイトで公開したほか、各館独自に建築に係る展示や建築ツアーなどを実施。

(2) トークイベント「建築にみるこれからの美術館～八戸市美術館の可能性～」

(p. 30参照)

3. 5館共通トークイベントへの出演

アート県「青森」の挑戦!! 第二弾 アートと地域との連携から考える魅力ある青森とアートプログラムのこれから

開催日 | 2022年3月6日(日) 13:30~15:30

会場 | 旧弘前偕行社(配信会場)

出演者 | 高森大輔(八戸市美術館副館長)、杉本康雄(青森県立美術館館長)、金島隆弘(アートプロデューサー/京都芸術大学客員教授)、鴻池朋子(アーティスト)、小林恵里(株式会社風景屋)、鷺田めろろ(十和田市現代美術館館長)

主催 | 青森県、青森アートミュージアム5館連携協議会

4. 連携促進に係る協議・検討

- (1) 周遊チケットの発行に向けた検討
- (2) 5館アートプロジェクト(仮称)の実施に向けた検討

3. 主なメディア掲載

雑誌 |

- ・オズマガジン
- ・北海道生活
- ・おとなのOFF
- ・あおもりのき
- ・ノジュール

WEB |

- ・ウェブマガジン COLOCAL
- ・青い日記帳ブログ
- ・ウェブ版美術手帖
- ・YouTube 津田大介のアート探訪

はちとまネットワーク

1. 事業内容

フェリー航路で繋がる工業都市である青森県八戸市と北海道苫小牧市は、2008年より、交流連携協定を締結し、さまざまな分野で交流を行っている。文化分野において、八戸市美術館は、苫小牧市美術博物館と連携を行っている。

2. 開催データ

はちとまネットワーク会議

開催日 | 2021年11月26日（金）

※新型コロナウイルス感染症の影響により、WEB会議での開催

8. 貸館

貸館

1. 貸館

2件

貸出期間 | 2022年3月11日(金)～13日(日)
事業名 | 第50回八戸臨泉会書展・第73回八戸臨泉会学生書道展
主催 | 八戸臨泉会
会場 | ギャラリー1、スタジオ、ジャイアントルーム

貸出期間 | 2022年3月26日(土)～28日(月)
事業名 | 第10回墨縁書展・第10回記念特別企画原拓展
主催 | 墨縁書道会
会場 | ギャラリー1、スタジオ、ジャイアントルーム

2. 貸館説明会

開催日 | 2021年8月18日(水)
(1) 10:30～ (2) 13:30～
参加者数 | 23人

開催日 | 2022年1月8日(土) 10:00～
参加者数 | 23人

開催日 | 2022年3月26日(土) 10:30～
参加者数 | 19人

9. データ

9. データ

入館者の状況

入館者の状況

1. 入館者数

月別入館者数

2021年	11月	11,799人
	12月	5,585人
2022年	1月	*3,350人
	2月	*851人
	3月	2,744人

*1月26日～2月20日まで新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館

年度ごとの延べ入館者数

	年度入館者数	開館後総延べ入館者数
2021年度	24,329人	24,329人

2. 視察見学受入

視察見学受入合計

89件

種別と件数

行政・議会	8件
美術館・文化施設（準備室含む）	2件
学校	25件
その他	54件

広報

1. WEBサイト

<https://hachinohe-art-museum.jp>

年間アクセス 72,758回 (2021年4月1日～2022年3月31日)

2. ソーシャルメディア

Twitter | @hachinohe_art_m

Instagram | @hachinohe_art_museum

Facebook | <https://www.facebook.com/HachinoheArtMuseum>

YouTube | @8artmuseum

3. 広報掲載実績

新聞 | 33件 (うち新聞連載27件)

デーリー東北、東奥日報、朝日新聞、岩手日報、陸奥新報

テレビ | 3件

RAB青森放送、岩手めんこいテレビ、NHK仙台放送局

ラジオ | 2件

全国FM放送協議会、FMアップルウェーブ

雑誌 | 41件

美術手帖、芸術新潮、美術の窓、美術展ぴあ、月刊美術、版画芸術、新美術新聞、新建築、季刊 あおもりのき、SPUR、OZmagazine、Discover Japan、Ginza、Hanako、rakra ほか

WEB | 16件

美術手帖、FASHION PRESS、BRUTUS、COLOCAL、Discover Japan、CasaBRUTUS ほか

その他 | 16件

八戸市美術館運営協議会

1. 八戸市美術館運営協議会

概要

八戸市美術館の運営や企画の検討にあたり、国内外の美術の動向や美術館運営のあり方、先進事例等に精通した専門家及び、地元関係者の視点からご意見・ご助言をいただくため、運営協議会を設置・運営する。

委員

会長 | 日比野克彦（東京藝術大学学長）

副会長 | 坂本禎智（八戸工業大学学長）

委員 | 池田亨（青森県立美術館美術企画課課長）

委員 | 伊藤達矢（東京藝術大学社会連携センター特任教授）

委員 | 漆畑幸男（八戸市に新美術館を熱望する市民の会代表）

委員 | 熊倉純子（東京藝術大学教授）

委員 | 志賀野桂一（東北文化学園大学特任教授）

委員 | 堤静子（八戸学院地域連携研究センター事務室長）

委員 | 馬渡龍（八戸工業高等専門学校准教授）

委員 | 三澤一実（武蔵野美術大学教授）

委員 | 安田真理子（八戸市立三条中学校校長）

委員 | 吉川由美（有限会社ダ・ハ プランニング・ワーク代表取締役）

任期

2022年3月18日（金）～2024年3月17日（日）

開催状況

※地震のため開催中止・延期

開催日 | 2022年3月18日（金）

場所 | 八戸市美術館

9. データ

運営（決算・組織）

運営（決算・組織）

1. 決算概要

決算内容	決算額（円）	比率
美術事業費	34,143,732円	10.9%
└ 各種展覧会・体験講座等	33,799,540円	
└ 写真のまち八戸事業	3,44,192円	
美術館整備事業費	151,283,667円	48.5%
運営経費	126,764,251円	40.6%
└ 施設維持管理経費	86,823,670円	
└ 一般管理事務経費	37,207,600円	
└ 美術品管理経費	2,732,881円	
合計	312,191,650円	

（職員人件費は含まない）

2. 組織

館長 | 佐藤慎也

副館長 | 高森大輔

美術専門監 | 山田泰子

総務運営グループ

主幹／グループリーダー | 水野茂樹

主査 | 北田祥士

主事 | 山内伶奈

技師 | 松田幸雄

一般事務員 | 小笠原夕子

一般事務員 | 類家舜

一般事務員 | 小林幸子

一般事務員 | 金子幸子

企画運営グループ

主幹／グループリーダー | 三浦一範

主査兼学芸員 | 大澤苑美

主事兼学芸員 | 篠原英里

主事兼学芸員 | 齊藤未来

主事兼学芸員 | 田村由衣

主事兼学芸員 | 高橋麻衣

主事兼学芸員 | 平井真里

テクニカル・コーディネーター | 神智

（2021年11月3日時点）

八戸市美術館条例

令和3年3月26日条例第10号

趣旨

第1条 この条例は、美術品及び美術その他の芸術に関する資料（以下「美術品等」という。）の収集、保管及び展示並びに美術その他の芸術に関する調査研究及び普及活動を行うことにより、市民の文化及び芸術の振興に資するとともに、文化芸術活動を通じた様々な出会い、学び及び交流の機会を提供し、もって新たな文化の創造と八戸市全体の活性化を図るため、美術館を設置し、その管理について必要な事項を定めるものとする。

美術館の名称及び位置

第2条 美術館の名称及び位置は、次のとおりとする。

- (1) 名称 八戸市美術館
- (2) 位置 八戸市大字番町10番地4

事業

第3条 八戸市美術館（以下「美術館」という。）は、次の事業を行う。

- (1) 美術品等の収集、保管及び展示に関すること。
- (2) 美術品等の利用に関し必要な説明、助言及び指導に関すること。
- (3) 美術その他の芸術に関する調査及び研究に関すること。
- (4) 美術その他の芸術に関する講演会、講座等の開催に関すること。
- (5) 美術その他の芸術に関する情報の収集及び提供に関すること。
- (6) 美術その他の芸術に関する創作活動及び発表の場の提供に関すること。
- (7) 美術その他の芸術を通じた教育及び学習に関すること。
- (8) 学校等教育機関及び他の美術館、博物館その他の文化施設等との連携に関すること。
- (9) 文化芸術活動を通じたまちづくりの推進に関すること。
- (10) 文化芸術活動を通じた市民交流の推進に関すること。
- (11) その他美術館の設置目的を達成するために必要な事業

観覧料

第4条 美術館の観覧料は、別表第1のとおりとする。
2 前項に規定する観覧料（以下「観覧料」という。）は、前納しなければならない。ただし、市長が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

使用の許可及び条件

第5条 美術館の施設のうち有料で使用させるもの（以下「有料施設」という。）を使用しようとする者は、市長の許可を受けなければならない。
2 市長は、美術館の管理上必要があると認めるときは、前項の許可に当たって、その使用について条件を付けることができる。

使用制限

第6条 市長は、有料施設の使用が次の各号のいずれかに該当するときは、その使用を許可しない。
(1) 風俗又は公益を害するおそれがあると認めるとき。
(2) 建物又は附属物を損傷するおそれがあると認めるとき。
(3) 美術館の管理に支障があると認めるとき。
(4) 集団的に又は常習的に暴力的不法行為等を行うおそれがある組織の利益になると認めるとき。
(5) その他市長が不適当と認めるとき。

使用条件の変更等

第7条 市長は、次の各号のいずれかに該当するときは、有料施設の使用条件を変更し、又はその使用を停止し、若しくは使用許可を取り消すことができる。

- (1) この条例若しくはこれに基づく規則又は使用許可の条件に違反したとき。
- (2) 偽りその他不正の行為により使用の許可を受けたとき。
- (3) 使用の許可後前条各号のいずれかに該当することが判明し、又は該当することとなったとき。
- (4) 公益上やむを得ない理由が生じたとき。

2 前項の規定（第4号の場合は、災害等による緊急の必要があるときに限る。）により使用条件を変更し、又は使用を停止し、若しくは使用の許可を取り消した場合において、当該変更、停止又は取消しにより、第5条第1項の規定により有料施設の使用許可を受けた者（以下「使用者」という。）に損害を及ぼすことがあっても、市はその賠償の責めを負わない。

使用料

第8条 有料施設の使用料は、別表第2及び別表第3のとおりとする。

2 前項に規定する使用料（以下「使用料」という。）は、前納しなければならない。ただし、市長が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

観覧料等の還付

第9条 既納の観覧料及び使用料（以下「観覧料等」という。）は、還付しない。ただし、災害その他不可抗力により観覧し、又は使用することができなくなったとき、その他市長が特別の理由があると認めるときは、その全部又は一部を還付することができる。

観覧料等の減免

第10条 市長は、公益上必要があると認められるとき、その他特別の理由があると認めるときは、観覧料等を減額し、又は免除することができる。

目的外使用等の禁止

第11条 使用者は、有料施設又は附属設備を、その許可を受けた目的以外の目的に使用し、又はその権利を他に転貸し、若しくは譲渡してはならない。

特別設備の設置等の許可

第12条 使用者が有料施設の使用に当たって、特別の設備を設置し、又は特殊物品の搬入をしようとするときは、あらかじめ市長の許可を受けなければならない。

使用者の原状回復義務

第13条 使用者は、その使用を終わったとき、又は第7条第1項の規定により使用を停止されたとき、若しくは使用許可を取り消されたときは、直ちにその使用場所を原状に回復して返還しなければならない。ただし、同項第4号の場合において、市長がその義務を免除したときは、この限りでない。
2 使用者が前項本文の規定による義務を履行しないときは、市長がこれを代行し、使用者からその費用を徴収する。

秩序保持

第14条 使用者及び入場者は、美術館の秩序保持及び施設的良好な保全に努めなければならない。

9. データ

関係規約
八戸市美術館条例

2 使用者及び入場者は、常に係員の指示に従わなければならない。

入場の拒否等

第15条 市長は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、入場を拒否し、退場を命じ、又はその他の必要な措置をとることができる。

- (1) 感染性疾患があると認められる者
- (2) 美術館の秩序又は公益を害するおそれがあると認められる者
- (3) 係員の指示に従わない者
- (4) その他管理上入場を不適当と認める者

損害賠償

第16条 美術館の施設、設備、資料等を損傷し、又は滅失した者は、市長の指示するところに従ってこれを原状に回復し、又はその損害の賠償をしなければならない。

美術館運営協議会

第17条 美術館の円滑な運営を図るため、八戸市美術館運営協議会（以下「協議会」という。）を置く。

2 協議会は、美術館の運営に関し必要な事項について協議し、市長に対して意見を述べるものとする。

3 前2項に定めるもののほか、協議会の組織及び運営等について必要な事項は、市長が定める。

美術館美術品等収集委員会

第18条 美術品等の適切な収集を図るため、八戸市美術館美術品等収集委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会は、美術品等の収集について調査審議し、市長に対して意見を述べるものとする。

3 前2項に定めるもののほか、委員会の組織及び運営等について必要な事項は、市長が定める。

委任

第19条 この条例の施行について必要な事項は、市長が定める。

附則

施行期日

1 この条例は、規則で定める日から施行する。ただし、附則第5項の規定は公布の日から、第17条、第18条並びに附則第3項及び第4項の規定は令和3年4月1日から施行する。（令和3年9月規則第86号で、同3年11月3日から施行）

八戸市美術館条例の廃止

2 八戸市美術館条例（平成23年八戸市条例第11号）は、廃止する。

八戸市附属機関設置条例の一部改正

3 八戸市附属機関設置条例（平成25年八戸市条例第6号）の一部を次のように改正する。

別表の1八戸市新美術館運営検討委員会の項を削る。

八戸市特別職の職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正

4 八戸市特別職の職員の報酬及び費用弁償に関する条例（昭和31年八戸市条例第26号）の一部を次のように改正する。

別表第1及び別表第2中「新美術館運営検討委員会の委員」を削り、「美術館運営協議会の委員」を「美術館運営協議会の委員美術館美術品等収集委員会の委員」に改め

る。

準備行為

5 この条例を施行するために必要な準備行為は、この条例の施行前においても行うことができる。

別表第1（第4条関係）

観覧料	全額
コレクションラボ展示	無料
企画展示及びコレクション特別展示	1人につき2,000円を超えない範囲内で市長がその都度定める額

備考

コレクションラボ展示とは美術館が収蔵する美術品等を活用して日常的に行う展示を、企画展示及びコレクション特別展示とは美術館が特別に行う展示をいう。

別表第2（第8条関係）

使用料

(1) 展示室等

	基本区分			複合区分		
	午前 午後	午後 夜間	夜間	午前 午後	午後 夜間	午前 夜間
	開館時刻から午後1時まで	午後1時から午後5時まで	午後5時から閉館時刻まで	開館時刻から午後5時まで	午後1時から閉館時刻まで	開館時刻から閉館時刻まで
ギャラリー1	1,280	1,710	850	2,990	2,560	3,850
ギャラリー2	2,600	3,470	1,730	6,070	5,200	7,810
ホワイトキューブ	9,340	12,450	6,220	21,790	18,680	28,020
ブラックキューブ	820	1,100	550	1,930	1,650	2,480
コレクションラボ	1,830	2,440	1,220	4,270	3,660	5,490
スタジオ	1,950	2,600	1,300	4,550	3,900	5,850
ワークショップブルーム	1,140	1,520	760	2,660	2,280	3,420
ジャイアントルーム 展示エリア1	680	910	450	1,600	1,370	2,060
ジャイアントルーム 展示エリア2	950	1,270	630	2,230	1,910	2,870
ジャイアントルーム 展示エリア3	1,100	1,460	730	2,560	2,200	3,300
会議室1	380	510	250	890	760	1,150
会議室2	310	420	210	740	630	950
会議室3	400	540	270	950	810	1,220
ジャイアントルーム その他エリア	占有して使用する場合に限り、1平方メートルにつき1時間当たり6円					
ティールーム	占有して使用する場合に限り、1時間当たり6円					

(2) 広場

区分	広場
金額	占有して使用する場合に限り、1平方メートルにつき1時間当たり6円

(3) 設備、器具等

市長が定める額

備考

1 1,000円を超える入場料等（入場料、会費、入場整理費その他名称のいかんにかかわらず、催物1回について入場者が支払

9. データ

関係規約
八戸市美術館条例

う対価をいい、座席等により入場の対価の額が異なる場合は、その最高額とする。)を徴収して施設を使用する場合又は物品の販売を伴う場合の使用料は、規定使用料の額の100分の200に相当する額とする。

2 美術館内で開催する予定の催物の準備、撤収等のみを行うために使用する場合の使用料の額は、規定使用料の額(前項の規定に該当する場合は、同項の規定により算出した額)の100分の50に相当する額とする。

3 使用可能時間を超過し、又は繰り上げて使用する場合の使用料の額は、当該超過し、又は繰り上げて使用する時間1時間(当該使用時間に1時間未満の端数があるときは、これを1時間とする。)につき、それぞれの規定使用料(前2項の規定に該当する場合は、それぞれの規定により算出した額)の1時間当たりの額の100分の120に相当する額とする。

4 この表に基づいて算出した額に10円未満の端数があるときは、これを切り捨てる。

別表第3(第8条関係)

サテライト施設の使用料

区分	多目的室
金額	月額168,000円

備考

1 使用期間が1月に満たないときは、1月を30日とする日割計算により計算する。

2 電気料は、別に実費を徴収することができる。

9. データ

関係規約
八戸市美術館条例施行規則

八戸市美術館条例施行規則

令和3年9月17日規則第87号

趣旨

第1条 この規則は、八戸市美術館条例（令和3年八戸市条例第10号。以下「条例」という。）の施行について必要な事項を定めるものとする。

開館時間

第2条 八戸市美術館（以下「美術館」という。）の開館時間は、午前10時から午後7時までとする。

2 前項の規定にかかわらず、市長が特に必要があると認めるときは、同項に規定する開館時間を変更することができる。

休館日

第3条 美術館の休館日は、次のとおりとする。ただし、市長が特に必要があると認めるときは、これを変更し、又は臨時に休館することができる。

- 1) 火曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下単に「休日」という。）に当たるときは、その日後においてその日に最も近い休日でない日）
- 2) 12月29日から翌年1月1日まで

2 前項の規定は、同項の休館日に有料施設（条例第5条第1項に規定する有料施設をいう。以下同じ。）の使用許可を受けた者が当該使用許可に係る有料施設を使用することを妨げない。

観覧料の納付

第4条 美術館の観覧料（以下「観覧料」という。）は、観覧券の交付を受ける際に納付しなければならない。

使用期間

第5条 有料施設の使用期間は、サテライト施設を除き、同一使用につき引き続き6日を超えることができない。ただし、市長が必要があると認めるときは、この限りでない。

2 サテライト施設の使用期間は、1年以内とし、市長が必要があると認めるときは、これを更新することができる。

使用者登録

第6条 次条第1項の規定による申請又は第9条第1項の規定による仮予約を初めて行おうとする者は、あらかじめ、八戸市美術館施設使用者登録申込書（別記第1号様式。次項において「申込書」という。）を市長に提出しなければならない。

2 市長は、前項の規定による申込みがあった場合は、その記載事項を確認し、当該申込みをした者について次条第1項の規定による申請又は第9条第1項の規定による仮予約ができる者として登録（以下「使用者登録」という。）をするものとする。この場合において、市長は、当該申込みをした者（団体にあっては、その代表者又は連絡担当者（代表者に代わりこの規則に定める手続を行う者として選任されている者をいう。））に対し、その者の氏名、住所、生年月日等が記載された書類その他申込書の記載事項に誤りがないことを確認するために必要な書類の提示を求めることができる。

3 市長は、使用者登録を受けた者が次の各号のいずれかに該当するときは、これを取り消すことができる。

- 1) 条例、この規則又は施設の使用、維持管理等に関する法令に違反したとき。

- 2) 偽りその他不正な手段により使用者登録を受けたとき。
- 3) 有料施設の使用料（以下「使用料」という。）の支払その他の債務を履行しないとき。
- 4) その他市長が使用者登録を不適当と認めるとき。

4 第2項の規定により使用者登録を受けた者は、登録内容に変更が生じたときは、遅滞なく、市長に届け出なければならない。

5 前各項に定めるもののほか、使用者登録に関し必要な事項は、別に定める。

使用許可の申請手続等

第7条 条例第5条第1項の規定により有料施設の使用許可を受けようとする者は、八戸市美術館施設使用許可申請書（別記第2号様式）を、市長に提出しなければならない。

2 前項の申請書は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める期間内に提出しなければならない。ただし、市長が相当な理由があり、かつ、美術館の管理運営上支障がないと認めるときは、この限りでない。

- 1) 第9条第1項の規定による仮予約をした場合の使用許可 当該仮予約の決定を受けた日から施設を使用する日（施設を使用する日が連続して複数ある場合は、その初日。以下「使用日」という。）前10箇月に当たる日の属する月の末日まで
- 2) 有料施設（サテライト施設を除く。）の使用許可（前号に掲げるものを除く。） 使用日前10箇月に当たる日の属する月の初日から使用日前7日に当たる日まで
- 3) サテライト施設の使用許可 使用日前12箇月に当たる日の属する月の初日から使用日前30日に当たる日まで

第8条 前条の規定にかかわらず、有料施設に売店を設置しようとする者は、売店設置許可申請書（別記第3号様式）に次に掲げる書類を添えて市長に提出しなければならない。

- 1) 営業種目、販売品目及び価格、営業時間その他営業に関する計画を記載した書類
- 2) その他市長が必要と認める書類

仮予約

第9条 有料施設（ギャラリー1及び2、スタジオ、ワークショップルーム、ジャイアントルーム展示エリア1及び2、会議室1から3まで並びに広場に限る。次項において同じ。）を使用しようとする者は、次の各号に掲げる使用日の区分に応じ、当該各号に定める期間に、仮の使用の予約（以下「仮予約」という。）を行うことができる。

- 1) 使用日が1月から3月まで又は10月から12月までの間である場合 使用日の属する年度の前年度の9月中
- 2) 使用日が4月から9月までの間である場合 使用日の属する年度の前年度の4月中

2 前項の規定により、同一の有料施設を同一日の同一時間に使用したい旨の仮予約が複数の者からあったときは、市長は、抽選により当該有料施設を使用する者を決定するものとする。ただし、市長が特に必要があると認めるときは、抽選以外の方法により決定することができる。

使用許可書の交付等

第10条 市長は、第7条第1項又は第8条の申請書を受領した場合において、有料施設の使用を許可したときは、第7条第1項の申請者には八戸市美術館施設使用許可書（別記第4号様式）を、第8条の申請者には売店設置許可書（別記第5号様式）を交付する。

2 前項の規定により有料施設の使用許可を受けた者（以下「使用者」という。）は、有料施設の使用の際、同項の規定

9. データ

関係規約

八戸市美術館条例施行規則

により交付を受けた八戸市美術館施設使用許可書又は売店設置許可書（以下これらを「使用許可書」という。）を携帯し、係員の要求があったときは、これを提示しなければならない。

事前打合せ

第11条 使用者は、有料施設の使用に際しては、原則として事前に使用方法その他必要な事項について係員と打合せをしなければならない。

使用時間の超過又は繰上げ

第12条 使用者は、やむを得ない理由により当該許可に係る使用可能時間を超過し、又は繰り上げて有料施設を使用する必要があるときは、あらかじめ市長の許可を受けなければならない。この場合において、当該超過又は繰上げは、超過又は繰上げのいずれか一方かつ1時間以内に限るものとする。

使用の変更

第13条 使用者は、許可を受けた事項を変更しようとするときは、八戸市美術館施設使用変更申請（承認）書（別記第6号様式）に使用許可書を添えて市長に提出しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、サテライト施設の使用許可を受けた者は、自己の都合により、許可を受けた使用期間を短縮しようとするときは、短縮後の使用期間の末日前3箇月までに八戸市美術館施設使用変更申請（承認）書に使用許可書を添えて市長に提出しなければならない。

3 市長は、前2項の申請書を受理した場合において、使用の変更を承認したときは、八戸市美術館施設使用変更申請（承認）書を当該申請者に交付する。

使用の中止

第14条 使用者は、有料施設の使用を中止しようとするときは、八戸市美術館施設使用中止届（別記第7号様式）に使用許可書（前条第3項の規定により交付された八戸市美術館施設使用変更申請（承認）書を含む。第17条第2項及び第18条第3項において同じ。）を添えて、市長に届け出なければならない。

設備、器具等の使用料等

第15条 条例別表第2の規定により市長が定める設備、器具等の使用料は、別表のとおりとする。

2 使用する設備、器具等の設営及び撤去は、係員の指示に従って使用者が行うものとする。

使用料の納付

第16条 使用料は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める時期に納付しなければならない。

(1) 有料施設（サテライト施設を除く。）の使用料 第10条第1項の規定により使用許可書の交付を受けるとき。ただし、設備、器具等の使用料にあっては、当該使用終了時までに納付することができるものとする。

(2) サテライト施設の使用料 翌月分の使用料及び前月分の電気料を毎月末日まで

2 前項の規定にかかわらず、次に掲げる場合にあっては、市長の定める期限までに使用料を納付することができるものとする。

(1) 国又は地方公共団体が使用する場合

(2) その他市長がやむを得ない理由があると認める場合

観覧料等の還付

第17条 条例第9条ただし書の規定により還付する観覧

料及び使用料の額は、次のとおりとする。

- (1) 災害その他不可抗力により、観覧又は有料施設の使用ができなくなったとき 既納の観覧料又は使用料の全額
- (2) 条例第7条第1項第4号の規定により有料施設の使用ができなくなったとき 既納の使用料の全額
- (3) 有料施設の使用日前90日までに使用中の届出があったとき 既納の使用料の3割の額
- (4) その他市長が特に必要があると認めるとき 市長が定める額

2 観覧料又は使用料（以下「観覧料等」という。）の還付を受けようとする者は、八戸市美術館観覧料等還付申請書（別記第8号様式）に観覧券又は使用許可書及び観覧料等の領収書を添えて市長に提出しなければならない。

3 市長は、前項の申請書を受理した場合において、観覧料等の還付を決定したときは、八戸市美術館観覧料等還付決定通知書（別記第9号様式）により当該申請者に通知する。

観覧料等の減免

第18条 条例第10条の規定により減額し、又は免除する観覧料の額は、次のとおりとする。

- (1) 当市が主催する行事において観覧するとき 観覧料の全額
- (2) 未就学児 観覧料の全額
- (3) 身体障害者手帳、愛護手帳、療育手帳若しくは精神障害者保健福祉手帳又は戦傷病者手帳の交付を受けている者（当該交付を受けている者に介護人がある場合にあっては、介護人1人を含む。）が観覧するとき 観覧料の5割に相当する額（当該相当する額に10円未満の端数があるときは、これを切り上げた額とする。）
- (4) 市内に住所を有する65歳以上の者が観覧するとき 観覧料の5割に相当する額（当該相当する額に10円未満の端数があるときは、これを切り上げた額とする。）

(5) 当市が発行する八戸ウェルカムチケットの提出を受けたとき 観覧料の全額

(6) その他市長が特に必要があると認めるとき 市長が定める額

2 条例第10条の規定により減額し、又は免除する使用料の額は、次のとおりとする。

- (1) 市内の小学校、中学校又は特別支援学校が無料で行う行事に有料施設を使用するとき 使用料の全額
- (2) 市内の高等学校又は大学が無料で行う行事に有料施設を使用するとき 使用料の5割に相当する額（当該相当する額に10円未満の端数があるときは、これを切り上げた額とする。）

(3) その他市長が特に必要があると認めるとき 市長が定める額

3 観覧料等の減額又は免除を受けようとする者は、八戸市美術館観覧料等減免申請書（別記第10号様式）に使用許可書を添えて市長に提出しなければならない。ただし、第1項第2号から第5号までの規定により減額又は免除を受けようとする者については、この限りでない。

4 市長は、前項の申請書を受理した場合において、観覧料等の減額又は免除を決定したときは、八戸市美術館観覧料等減免決定通知書（別記第11号様式）により当該申請者に通知する。

行為の禁止

第19条 美術館においては、次に掲げる行為をしてはならない。

- (1) 美術館の施設、設備等を損傷し、又は滅失すること。
- (2) 他人に危害を及ぼし、若しくは他人に迷惑となる行為をし、又はこれらのおそれがある物品若しくは動物の類を携帯すること。
- (3) 許可なくして美術館が収蔵する美術品等（条例第1条に規

9. データ

関係規約

八戸市美術館条例施行規則

定する美術品等をいう。以下同じ。)の写真撮影又は拓本複写等の行為をすること。

- (4) 許可なくして物品の販売、宣伝その他営利行為をすること。
 - (5) 許可なくして印刷物、ポスター等を配布し、又は掲示すること。
 - (6) 美術館の施設及び敷地内において喫煙すること。
 - (7) 所定の場所以外において火気を使用すること。
 - (8) その他美術館の管理に支障がある行為
- 2 前項第3号の許可を受けようとする者は、八戸市美術館美術品等特別利用許可申請書(別記第12号様式)を市長に提出しなければならない。
- 3 市長は、前項の申請書を受理した場合において、これを許可したときは、当該申請者に八戸市美術館美術品等特別利用許可書(別記第13号様式)を交付する。

美術品等の寄託

第20条 美術館に美術品等の寄託をしようとする者は、当該美術品等に八戸市美術館美術品等寄託申請書(別記第14号様式)を添えて市長に提出しなければならない。

2 市長は、前項の申請書を受理した場合において、美術品等の寄託を受けることを決定したときは、当該申請者に八戸市美術館美術品等受託書(別記第15号様式)を交付する。

寄託美術品等の免責

第21条 市長は、寄託を受けた美術品等が災害その他の不可抗力によって損害を受けた場合にあっては、その賠償の責めを負わない。

(補則)

第22条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、市長が定める。

附則

- 1 この規則は、条例の施行の日から施行する。
 - 2 八戸市美術館条例施行規則(平成23年八戸市規則第27号)は、廃止する。
 - 3 第7条第2項第1号及び第9条第1項の規定にかかわらず、この規則の施行の日から令和5年3月31日までの間の使用に係る同項に規定する仮予約及び当該仮予約をした場合の使用許可に係る第7条第2項第1号に定める申請書の提出期間については、市長が別に定める。
- 別表(第15条関係)

設備、器具等使用料

区分	設備等の名称	単位	金額(円)	摘要
照明設備	追加スポットライト	1個	140	ギャラリー1を使用する場合は15個まで、ギャラリー2を使用する場合は30個まで無料
展示設備	キャスト付き展示パネル	1枚	140	ジャイアントルーム展示エリア1又は2を使用する場合は各2枚まで、スタジオを使用する場合は4枚まで無料
映像設備	プロジェクター(備付)	1台	500	ブラックキューブ専用
	ポータブルプロジェクター	1台	300	
	壁掛けスクリーン	1台	200	スタジオ専用
	テレビモニター	1台	270	
音響設備	拡声装置	1式	270	スタジオ又はジャイアントルーム専用。有線マイク2本を含む。
	ワイヤレスマイク	1チャンネル	150	
その他	電池		実費	電池代は含まない。

備考

- 1 この表に定める使用料の額は、当該設備、器具等を使用する施設の使用許可に係る使用時間1時間当たり(追加スポットライト及びキャスト付き展示パネルにあっては、使用1日当たり)の額とする。
- 2 使用可能時間を超過し、又は繰り上げて使用する場合は使用料の額は、当該超過し、又は繰り上げて使用する時間1時間(当該使用時間に1時間未満の端数があるときは、これを1時間とする。)につき、それぞれこの表に規定する使用料の額の100分の120に相当する額とする。
- 3 この表に基づいて算出した額に10円未満の端数があるときは、これを切り捨てる。

9. データ

関係規約
八戸市美術館美術品等収
集委員会規則

八戸市美術館美術品等収集委員会規則

令和3年3月30日規則第41号

定める。

趣旨

第1条 この規則は、八戸市美術館条例（令和3年八戸市条例第10号）第18条第3項の規定に基づき、八戸市美術館美術品等収集委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営等について必要な事項を定めるものとする。

附則

この規則は、令和3年4月1日から施行する。（別記第4号様式）を、第8条の申請者には売店設置許可書（別記第5号様式）を交付する。

調査審議事項

第2条 委員会は、八戸市美術館（以下「美術館」という。）が収集しようとする美術品及び美術その他の芸術に関する資料（以下「美術品等」という。）に関する次に掲げる事項について調査審議する。

- (1) 美術品等の購入の適否及び価格の評価に関すること。
- (2) 美術品等の寄贈の受入れに関すること。
- (3) その他収集に係る専門事項に関すること。

組織

- 第3条 委員会は、委員7人以内で組織する。
- 2 委員は、美術品等に関し専門的知識を有する者のうちから、市長が委嘱する。
 - 3 委員の任期は、2年以内とする。ただし、再任を妨げない。
 - 4 委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

委員長及び副委員長

- 第4条 委員会に、委員長及び副委員長各1人を置く。
- 2 委員長及び副委員長は、委員の互選によって定める。
 - 3 委員長は、会務を総理する。
 - 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

会議

- 第5条 委員会の会議は、委員長が招集し、その議長となる。ただし、新たに委員の委嘱が行われた後最初に招集すべき委員会の委員長の職務は、市長が行う。
- 2 委員会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。
 - 3 委員は、調査審議の対象である美術品等に直接の利害関係を有する場合は、その議事に加わることができない。
 - 4 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
 - 5 委員会の会議は、非公開とする。

資料の提出の要求等

に対し、資料の提出、意見の開陳、説明その他必要な協力を求めることができる。

秘密の保持

第7条 委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、同様とする。

庶務

第8条 委員会の庶務は、美術館において処理する。

委任

第9条 この規則に定めるもののほか、委員会の組織及び運営等に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って

施設概要

1. 設計者

設計者

西澤徹夫建築事務所・タカバンスタジオ設計共同体（東京都中央区）

施工者

鴻池組・田名部組・東復建設特定建設工事共同企業体（建築）

ダイダン・サカモト・葵特定建設工事共同企業体（機械）

ユアテック・溝口電気特定建設工事共同企業体（電気）

2. 概要

敷地概要

指定建ぺい率 | 100% (6,731.16㎡)

指定容積率 | 600% (40,386.96 ㎡)

防火地区 | 防火地域

用途地域 | 商業施設

接道 | 幅員13.205m、接道174m

建築概要

設置場所 | 八戸市大字番町10番地4

構造種別 | 鉄骨造

仕上 | 押出成形セメント板、ガルバリウム鋼板（外壁）

超速硬化ウレタン塗膜防水（一部押えコンクリート仕上）（屋根）

敷地面積 | 6,732.14㎡

建築面積 | 3,080.21㎡

延床面積 | 4,844.95㎡

階数 | 地上3階建て

杭・基礎 | 杭基礎

最高高さ | 19.23m

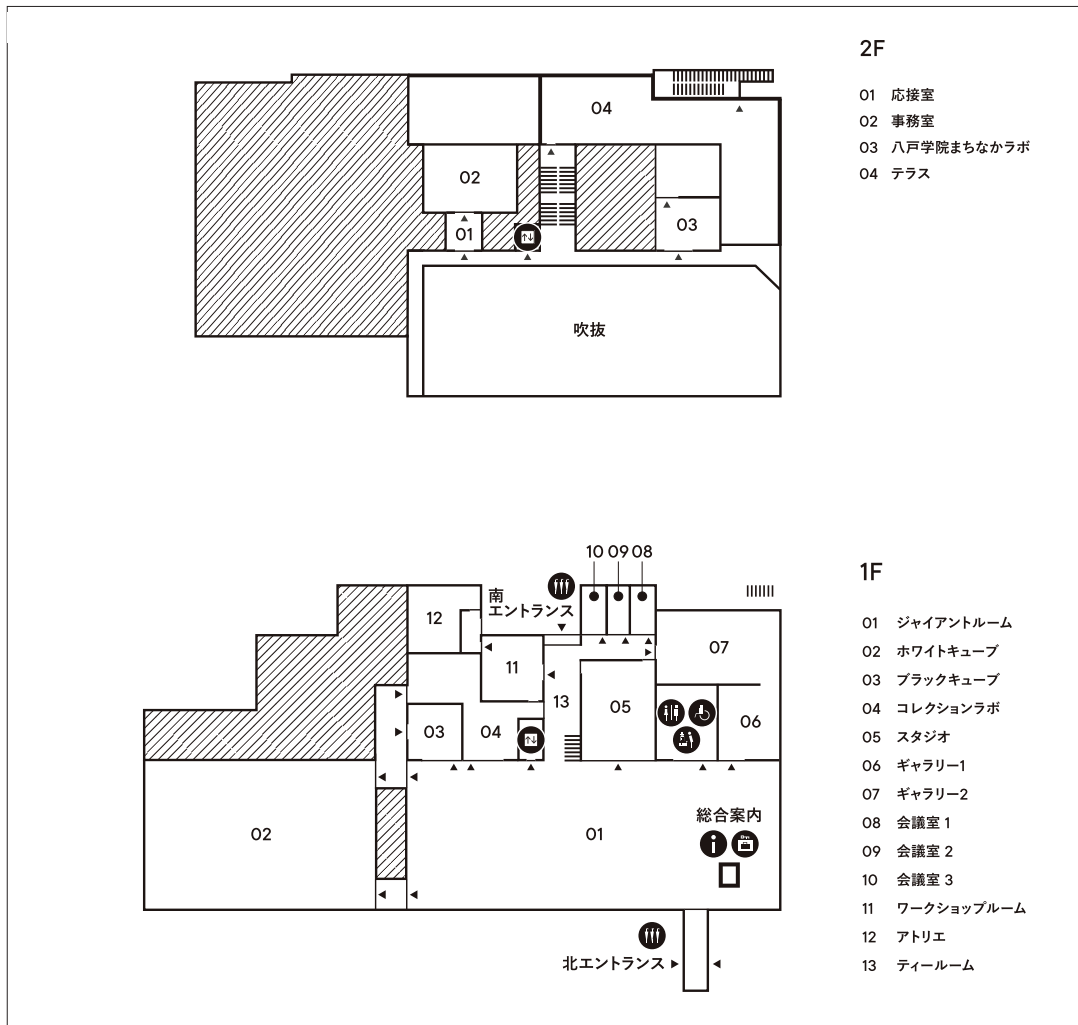
駐車場台数 | 10台（公用車用2台、来客者用2台、障がい者用2台、荷捌用2台、大型車用2台）

設計期間 | 2018年3月～2019年1月

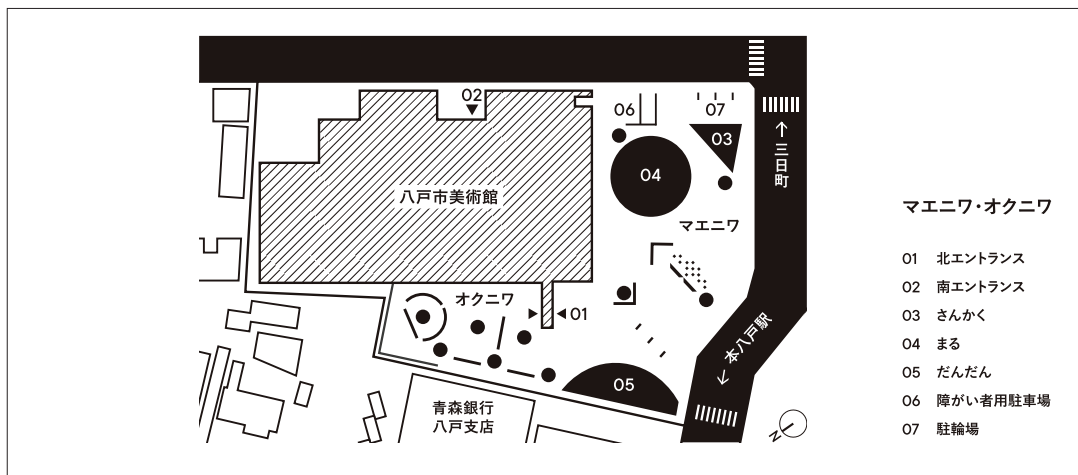
工事期間 | 2019年4月～2020年12月

9. データ

施設概要




館内マップ



館外マップ

沿革

年月	項目
1985年 3月30日	大蔵省東北財務局青森財務事務所から市長あて「未利用国有地の買受け等勸奨について」の文書が送付される。
6月7日	上記買受け勸奨を受けて、新築移転する八戸税務署の跡地建物等の買受け要望のある旨回答（理由：八戸市美術展示館（仮称）として活用したい）。
9月18日	国有財産「八戸税務署」売払要望書を提出。
12月	「買受け等予定地等一覧表」が青森財務所長から送付され、買受けをする旨の確認書を提出。
1986年 2月25日	八戸市美術展示館（仮称）建設懇談会を設置。第1回会合、以降全5回開催。委員：月館唯師、小山田孝、田名部定吉、石橋正美（座長）、米内安芸。
3月24日	議会－八戸市美術展示館（仮称）用の建物として旧八戸税務署の買入れを議決。
4月12日	国有財産売払契約を締結。
7月	工事請負業者各社と契約締結。
9月20日	議会－八戸市博物館条例の一部を改正する条例を制定。名称「八戸市美術館」、博物館の分館とする。
10月29日	教育委員会－八戸市博物館条例施行規則の全部、八戸市博物館等規則の一部改正する規則を制定。
11月10日	八戸市美術館の工事終了。
11月21日	開館式。
11月22日	一般公開 開館記念特別展「日本現代美術秀作展－文化庁収蔵作品による」開催。
2011年 4月1日	教育委員会より市長部局まちづくり文化観光部へ移管。
2016年 4月1日	新美術館整備のため、新美術館建設推進室が設置。
2017年 8月8日	美術館解体のため、新美術館建設推進室事務所を移転（八戸市八日町9）。同事務所内に「はちのへまちなかアートラボCo部屋」を開設。
2019年 3月	「八戸市新美術館管理運営基本計画」策定。
4月	新美術館建物建設工事に着手。
2020年 3月	「八戸市新美術館 中期運営計画」策定。
12月	美術館本棟 竣工。
2021年 2月	新美術館建設推進室事務所を八戸市美術館内へ移転（八戸市大字番町10-4）。
3月	広場工事着手（9月完了）。
8月8日	イベント「美術館のプロローグ」実施。一般公開。
11月3日	（新）八戸市美術館開館。開館記念「ギフト、ギフト、」開催。



八戸市美術館
令和3年度(2021年)
年報

編集・発行 | 八戸市美術館
〒031-0031 青森県八戸市大字番町10-4
Tel : 0178-45-8338
Mail : art@city.hachinohe.aomori.jp

発行 | 令和6年4月